主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

～日本語力とセルフアドボカシースキルを身につけ
人間関係とコミ力を高める指導の工夫～

髙良千恵子（難聴学級担任）

入学時の児童の実態①　入級時

①障害の状態　聴力　裸耳[redacted]dB　　補聴器装用下閾値[redacted]dB
[redacted]による重度感音難聴
障害者手帳[redacted]級　（2022年、[redacted]級へ移行）

②入級時の諸検査結果（田中ビネー知能検査）

生活年齢	5−6
精神年齢	[redacted]
知能指数	[redacted]

就学支援委員会の結果より
　検査の結果、全IQ[redacted]
[redacted]である。
「ボタンを箱の上に置きなさい」などの言葉の意味が理解できずに指示に従えないなど、[redacted]結果となった。

入学時の児童の実態②

※幼稚園からの申し送りより

① 言葉はほとんど発することがなかった。
② トイレなどの際は、手話でトイレと示すことができる。
③ 泣くときしか児童の声を聞くことがない。
④ 同学年のお友達とは遊ぶことができず、担任と室内遊びや砂遊びをしていることが多かった。
⑤ 小学校が運動会練習をしている時等は、隣接する運動場から聞こえる太鼓の音に反応し、耳をふさいで補聴器を外すことがあった。
⑥ こちらが肩を叩いて話しかけると顔を向けることはできるが、質問に対して答えることはできない。
⑦ ロジャーマイクを使っても反応ができない。
⑧ パニックを起こすことなどはほとんどなく、周りを見て担任が促すと一緒に行動することはできる。

入学時の児童の実態③

※H31担任の週案記録より

①語彙力
・好きな動物は？と聞くと、首をかしげる。犬、ねこ、とり、うし
　ねずみは知っている。（**動物の意味が分からない**）
・果物の絵カードを見せると「ぶどう、果物、りんご好き」と答える。
　「果物って何？」と聞くと「赤、見る（ジェスチャー）」と答える。
・語彙力が乏しく、特に動詞はほとんど習得されていない。
　※語彙の不足が顕著だった。

②文法力
・「ウサギ行くする。」（ウサギを見に行きたい）
・「S　お父さん」＋泣くジェスチャー（Sがお父さんに叱られて泣いている。）
　※文法力、構文力が身についていなかった。

同じ市内の難聴学級に遊びに行った翌日の会話

一年時の担任の記録

昨日、一緒にどこに行った？

行った。

行ったね！場所覚えてる？

・・・行った。

記憶力が厳しいのかな・・・？

ん・・・？

Ｉ小学校に行ったでしょう

Ｉ小学校・・・見る。

何で行った？（タクシー）

うーん・・・？

適切な質問応答関係が成り立たない

体験活動の充実

1、2年の指導目標
体験活動の中で語彙の拡充を図り
日記指導と合わせながら物事の概念形成を図る。

児童の実態から！
日本語の基礎になる
語彙が乏しい

語彙の不足は、物事の概念が十分に身についていないということ。
語彙を習得するには、まず直接体験が必要！
直接体験によってそのことばの意味・概念を身につけ、それらの積み重ねから高次の概念（上位概念）の言葉が身につく！

※体験活動を充実させる

体験活動の充実

様々な体験を行った

体験活動は視覚教材を用いて言葉を意識させる

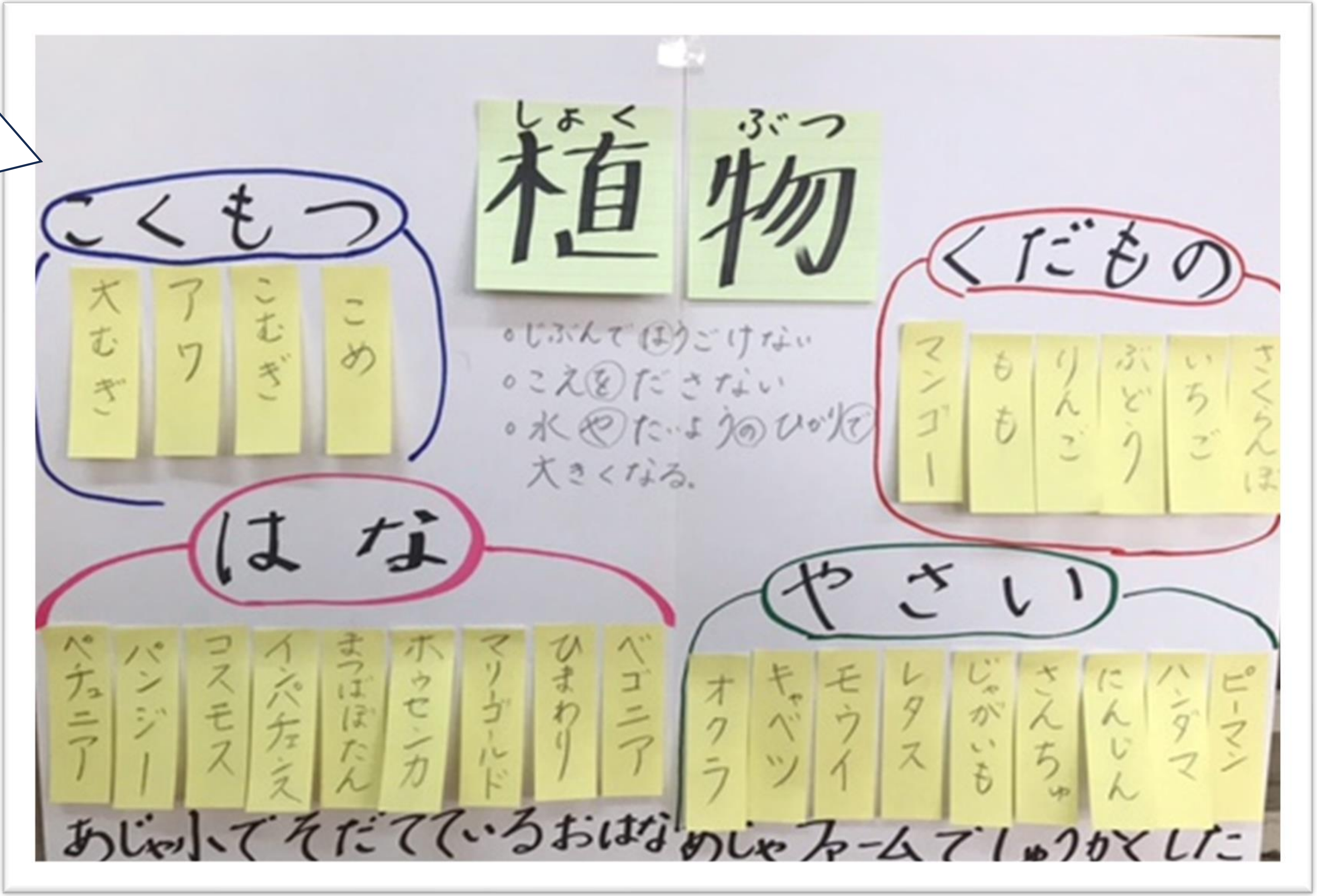
ホットケーキ、お月見団子、ムーチー作り、カレー、たこ焼き、カラフル卵、ししまい、クリスマスリース、暮れの町見学、空港見学栽培学習、いかだ作りなどなど

児童の実態から、教科書を使った机上での学習は厳しいと判断。
体験活動を充実させ、その中で言葉を育てる必要があると考えた。

体験活動の充実

言葉の分類（カテゴリー化）

ひまわり、コスモス、ベゴニアなどを括ると〝花〟とつく、レタス、ピーマン、ニンジンなどを括ると〝野菜〟とつく、つまり、言葉は仲間分けして括ると名前がつくことを学んだ。
これにより、言語力が飛躍的にのびた。



体験活動の充実

工程の視覚化

体験活動として調理実習や制作活動、栽培学習などあらゆることで写真と文をつなげ、体験の言語化を意識して指導する。その際、なるべく２語文、３語文に書き直したり、接続詞をいれるなどして日本語文法も同時に意識させる。

体験活動の充実

お月見団子作りの前に小麦粉粘土遊び

サラサラしている

水を加えたら
ベトベトしてきた

おもい！
ちえこ先生！
おもいよー！

持つと重い！
ずっしりしている

体験の言語化

常に言葉を意識させる。（特に動詞）

動詞→ひっぱる、こねる、まとめる、くわえる
副詞→サラサラ、ベトベト、モチモチ、ずっしり
形容詞→重い、軽い、楽しい、冷たい　など
※動詞、形容詞の語形変化も楽しみながら
意識させる。

体験活動の充実

材料の買い出し（スーパー）

他者に関わる実践力も同時に育てていく。

買い物学習のねらい

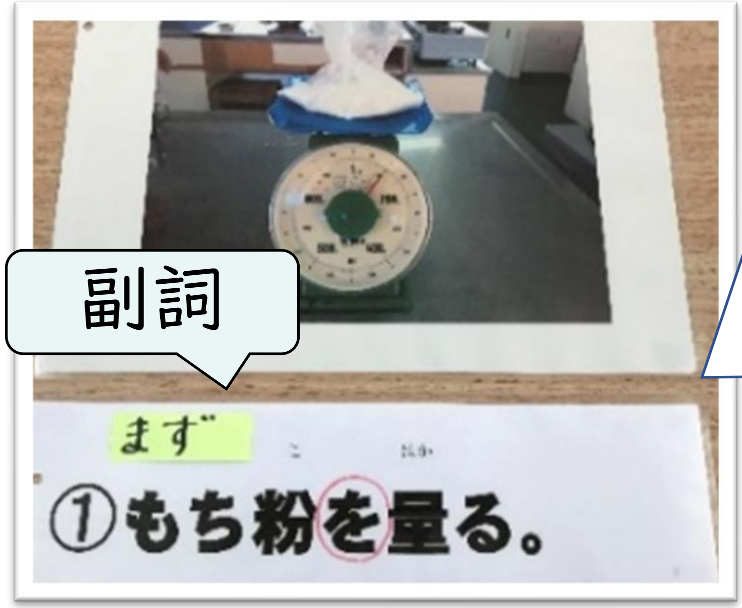
①お店の陳列も全てカテゴリーに分かれていて、そこにも名前がつけられることを知る。
(例)野菜・肉類・冷蔵・冷凍・・・

②買い物の際、自分の欲しい物（思い）が伝わるように写真や買い物メモを持っていくことを知る。
（メモ等を持っていくことで安心して買い物ができ、意思疎通が図れる方法であることに気づく）

③店員さんに自分で声をかけ購入することで、他者と関わる実践力を育てる。

④買い物後、実体験を元に日記を書くことでイメージする力を豊かにする。

体験活動の充実

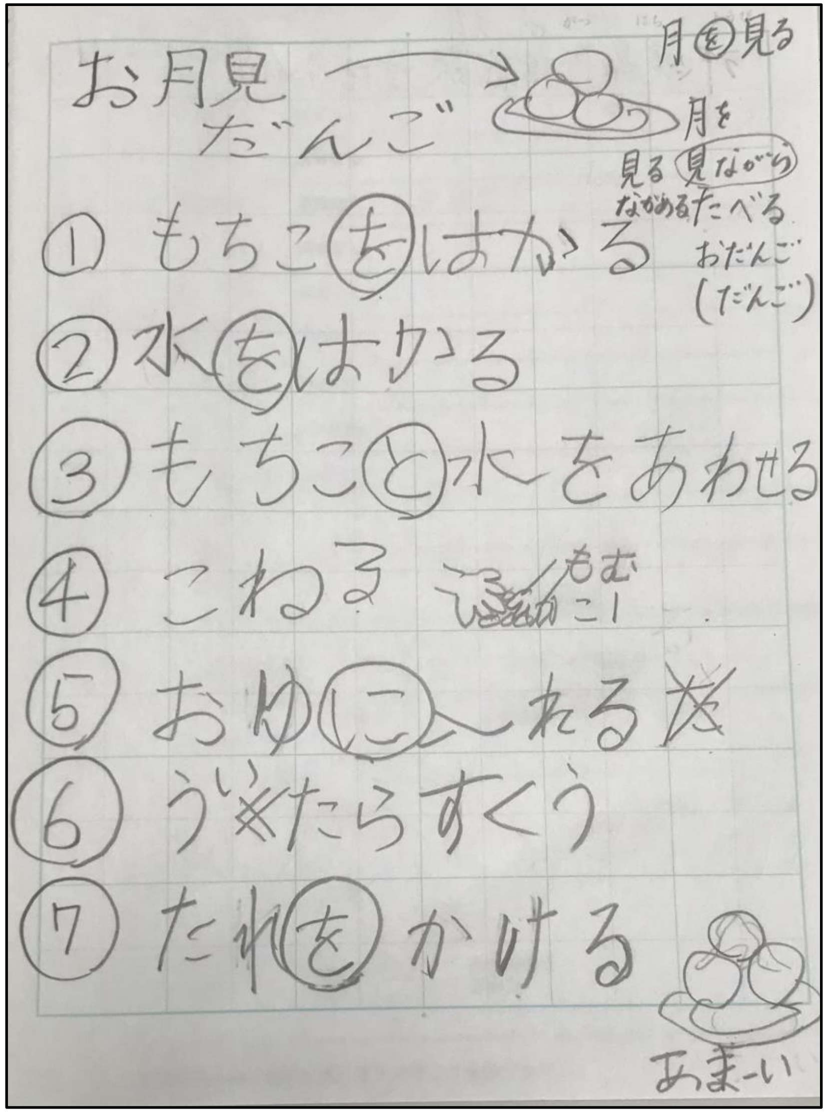


副詞

メタ言語意識を育てる

全ての物には名前がついている

調理実習前には、常にレシピを書いて確認することで語彙や文法意識を育てる



【文法意識を育てる】

- ・助詞の用法
- ・接続詞の用法
- ・動詞の活用
- ・形容詞の活用

体験活動の充実

常に言語を意識させる

カテゴリー化され名前がつけられる

材料（ざいりょう）

もち粉

水（みず）

材料（ざいりょう）

（生地（きじ））

もち粉（こ）	１００ｇ
水（みず）	８０ｃｃ

カテゴリー化され名前がつけられる

用具（ようぐ）

はかり

計量（けいりょう）カップ

なべ

穴（あな）じゃくし

ボウル

さら

体験活動の充実

工程の視覚化

写真→日本語文の読解→行動化

ゆでる

湯気（ゆげ）

沸騰（ふっとう）

ぐらぐら

うきあがってきた

すくう

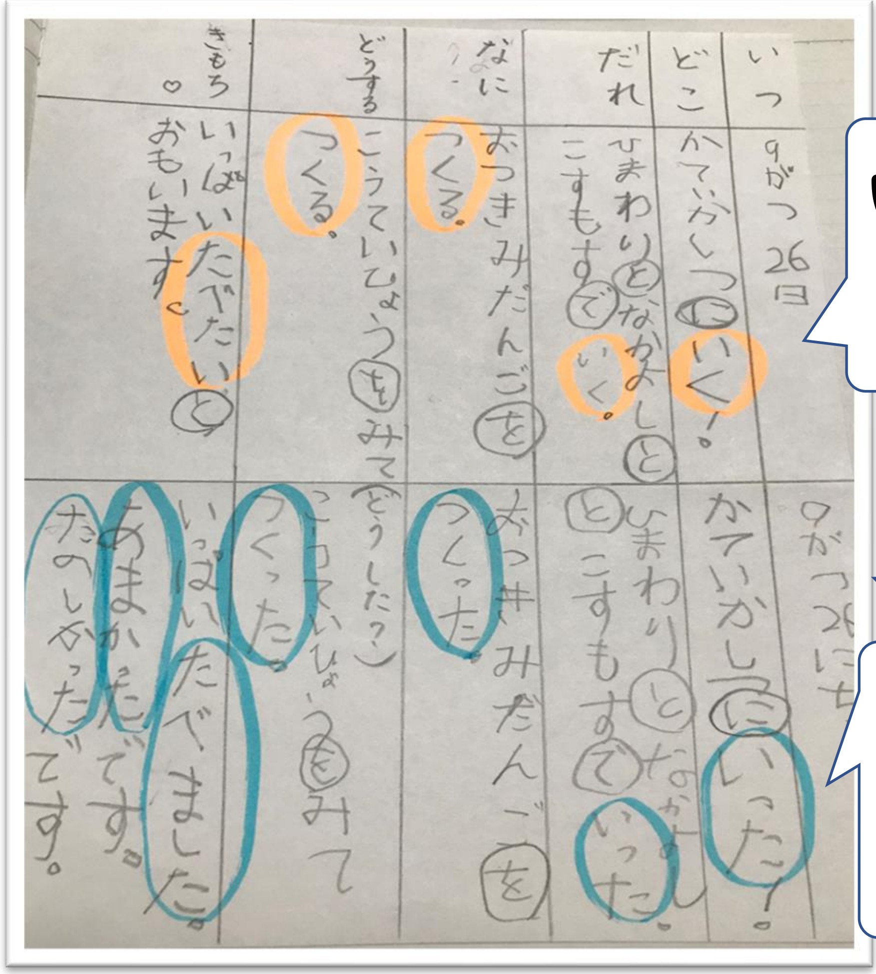
冷やす

お月見団子の概念が深まる

体験活動の充実

活動前後の日記は上下に書くことで動詞の語形変化を意識させる

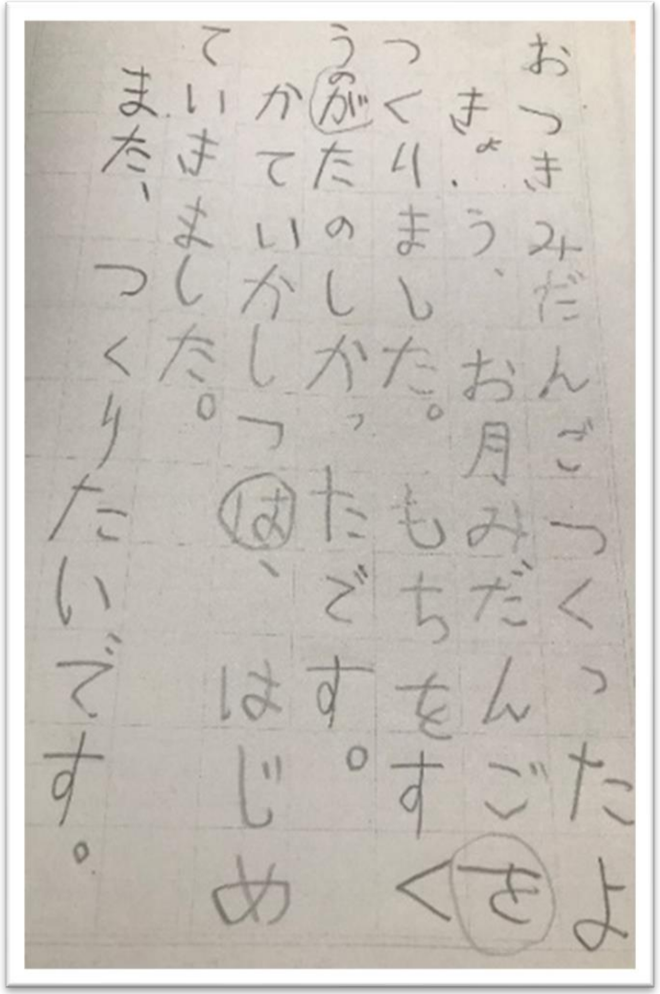
教師の文を見本にして、助詞の用法、動詞の過去形、丁寧な言い方、形容詞の活用などを意識させながら書かせ〝言葉で思いを伝え合うことができる〟体験を行った。



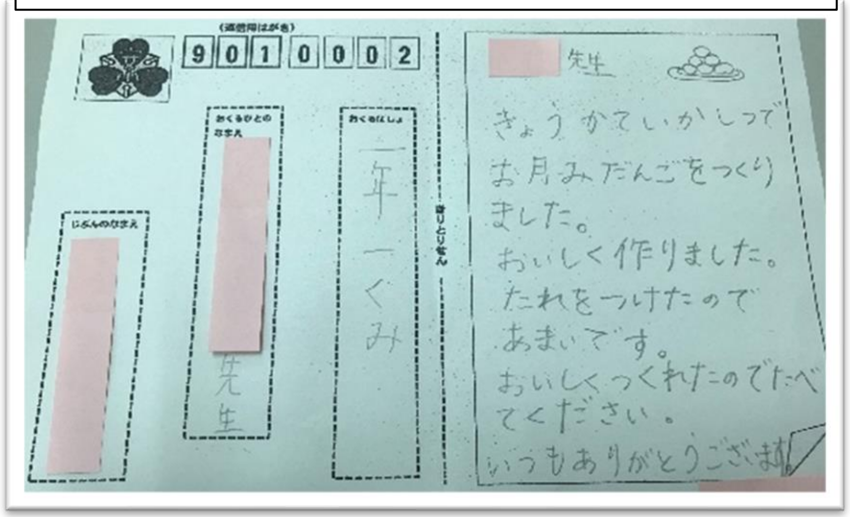
いく

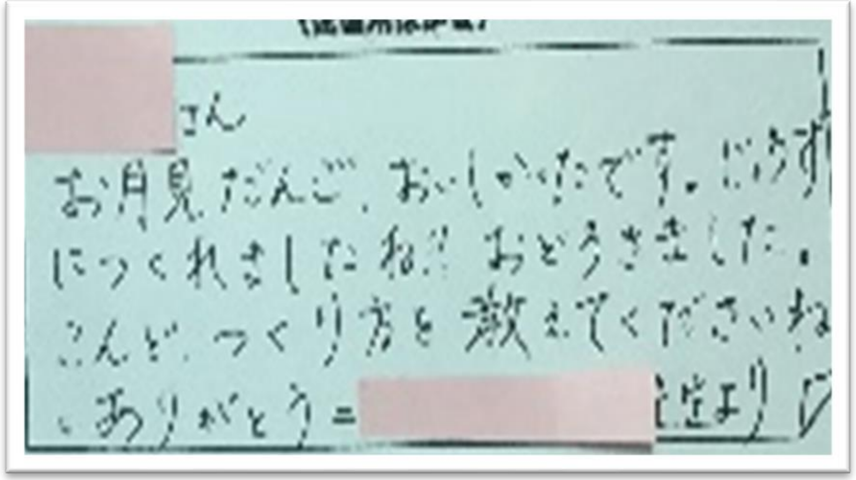
いった

翌日の日記



交流担任へ往復はがきに感謝の言葉を添えてお月見団子のプレゼント





体験活動の充実

収穫から販売学習まで

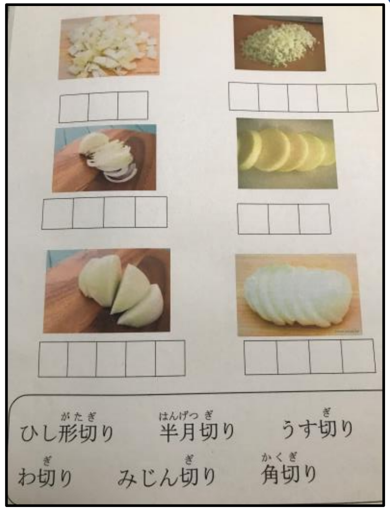
栽培学習

種植え

お世話

収穫

切り方にも
名前がつく



調理実習
カレーパーティー

販売学習

おすすめレシピ

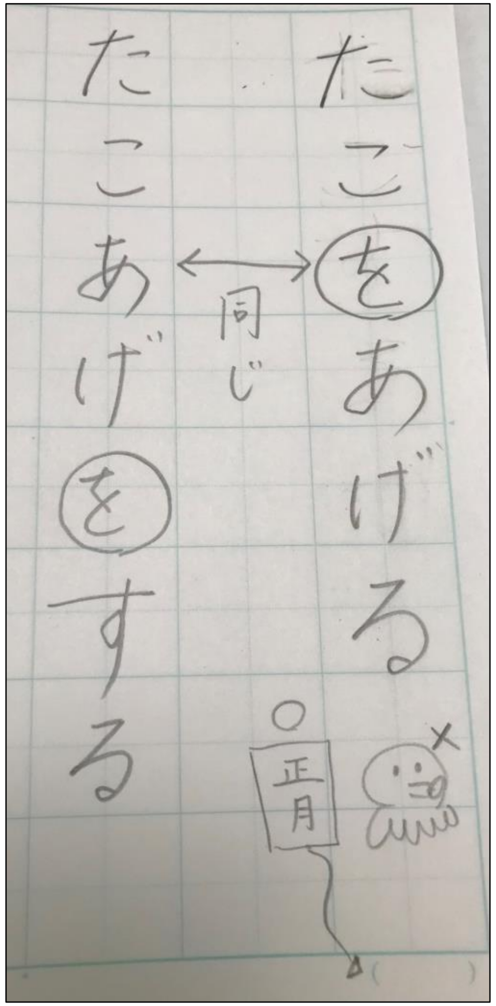
体験活動の充実

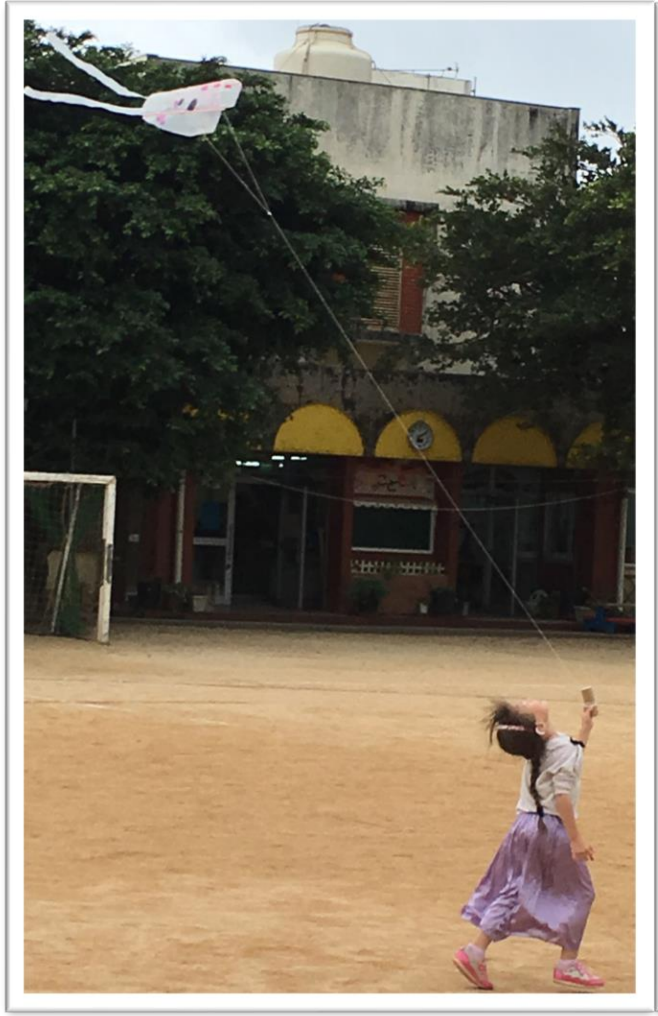
どのような活動でも常に言葉と共に！

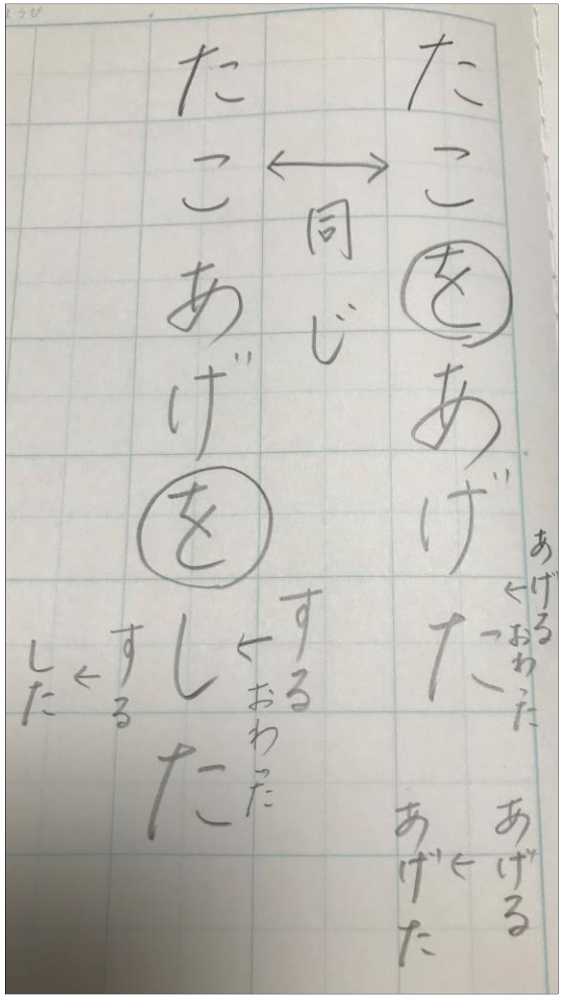
動詞の語形変化を意識させた指導

〈行動の前〉する・あげる

〈行動の後〉した・あげた







体験活動の充実

自立活動と生活科、国語、算数、道徳等、教科横断的な指導を行った。1年生

	体験活動の項目	取り組み内容	栽培活動	国語	算数
4・5月 スタートカリキュラム			・土作り	※語彙力、文法力が厳しく教科書を用いた机上での学習だけでは困難と判断し、体験活動の中で言葉を育むことから始めた。 【1年生の指導内容】 ・話す→調理実習後の往復はがきで気持ちを伝えあう。 ・（聞く）見る→文の中の大事な言葉を捉える。 ・読む→平がな、カタカナ、漢字を読み、調理実習の行程表などを読む。 ・書く→平がな、カタカナ、漢字を書き、レシピや日記等の短文を書く。	※象徴機能の弱さから、数の構成（数の大小、絵や図を用いた数の表現）や表し方を理解するのがとても厳しかった為、体験活動で象徴機能を高めることから始めた。 【1年生の指導内容】 ・数の順序（1～20） ・知識、技能として繰り上がり繰り下がりのない足し算、引き算 ・文章問題は、足し算を表す言葉は理解できたが、引き算の「ちがいは?」等は、全く理解できなかった。 ・時計の読み方もとても厳しかった。
6・7月	公共施設の見学	・近隣の小学校や空港等へ公共の乗り物に乗って移動する体験。帰校後、写真を元に日記を書く。	・種植え ・水まき ・追肥 ・間引き 等 常時お世話を続ける 野菜の収穫		
8・9月	いかだ作り お月見団子・ホットケーキ作り	・ペットボトルいかだを作る。 ・必要な材料や道具の名前を知り、材料、用具という言葉の意味も知る。材料の写真をもって買いに行く。工程表を見ながら教師と一緒に調理する。			
10月	獅子舞づくり	・安謝の十五夜祭のお話を聞き、獅子の作り方が書かれた文章を読んで教師と獅子作りを行う。			
11月	カラフル卵 たこ焼き作り	・それぞれの必要な材料や道具の名前を知り、工程表に沿って作ることができる。			
12月	クリスマスリース作り	・クリスマスの本を教師と一緒に読む。クリスマスリースの材料を教師と一緒に準備して作る。			
1月	ムーチー作り カレー作り	・ムーチーの絵本の読み聞かせ。ムーチーの葉を収穫し、茎から紐作り、そして、調理を教師と行う。 ・カレーの材料準備と調理を教師と一緒に行う。			
2月	野菜の販売学習	・おすすめレシピ作り・のぼりやポスターの文を考える・野菜の数を数え、計量して袋詰めを行う。	野菜の販売学習		
3月2日、コロナウイルス感染症拡大防止措置により休校					

体験活動の充実

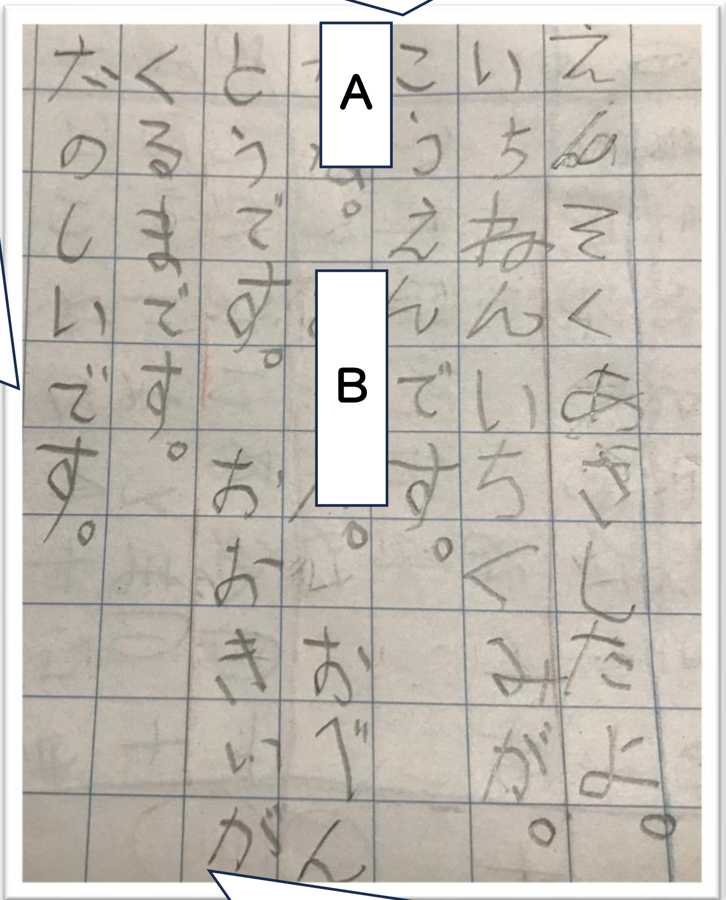
自立活動と生活科、国語、算数、道徳等、教科横断的な指導を行った。2年生

	体験活動の項目	取り組み内容	栽培活動	国語	算数
5月25日までコロナウイルス感染拡大防止措置により休校 ※調理実習は原則禁止となり、栽培活動や制作活動中心となった。				※当該学年の語彙力、文法力には達しておらず、教科書を読んで理解することはほとんどできなかったため、体験活動を継続させながら、1年生の内容も合わせて指導した。 【2年生の指導内容】 話す→体験活動の内容を思い出し、順序だてて話すことができる。 （聞く）見る→大事なことが分かり、それを落とさないようにしながら興味をもって見る。 書く→事柄の順序を思い出しにそれに沿って書く事ができる。 読む→言葉の意味を抑え、内容の大体をつかむ。	※象徴機能は少しずつ向上していったが、当該学年の教科書は理解できなかった。そこで、2年生も体験活動で象徴機能の向上を目指した。 【2年生の指導内容】 ・基本的な図形の名称（三角形、四角形、正方形、長方形、頂点、辺、直角） ・100までの数とその合成、分解 ・時計の学習（1年） ・かけ算の暗唱（意味理解は厳しい） ・簡単な分数 ・簡単な表やグラフの読み取り
6・7月	いかだ作り キーホルダー作り	・ペットボトルを結束バンドでつなげていかだを作る。 ・ICT活用技術も手順表で指導しながら、キーホルダーに挟み込む絵柄をインターネットからダウンロードし印刷してキーホルダーを仕上げる。	・土作り ・種植え ・水まき ・追肥 ・間引き 等 常時お世話を続ける		
9月	ヘアゴム作り	・3月の販売学習にて販売するヘアゴムを手作りする。ヘアゴム作りの工程表を読み、手順に沿ってひとりでヘアゴムを作ることができる。			
10月	獅子舞づくり	・安謝の十五夜祭のお話を聞き、獅子の作り方が書かれた文章を一人で読んで獅子作りができる。			
11月	※児童の家族のコロナウイルス罹患により、登校禁止				
12月	クリスマスリース作り	・クリスマスの本や紙芝居を教師と一緒に読み関係する言葉について抑える。クリスマスリース作りに使う材料を準備し、工程表を読んで自分で作る。	野菜の収穫 野菜の 販売学習		
1月 2月 3月	販売学習 ・野菜	・おすすめレシピ作り・ポスターの文を考え書く ・野菜を計量して袋詰めを行う。 ・計算機の使い方が分かり、自分でお金の計算をしておつりを渡すなど、接客ができる。			

体験活動の充実

（担任による解読）
きのう、いちねんいちくみといっしょに、おおがたバスにのって、こうえんにえんそくにいきました。Aさん、Bさんといっしょにおべんとうをたべました。たのしかったです。

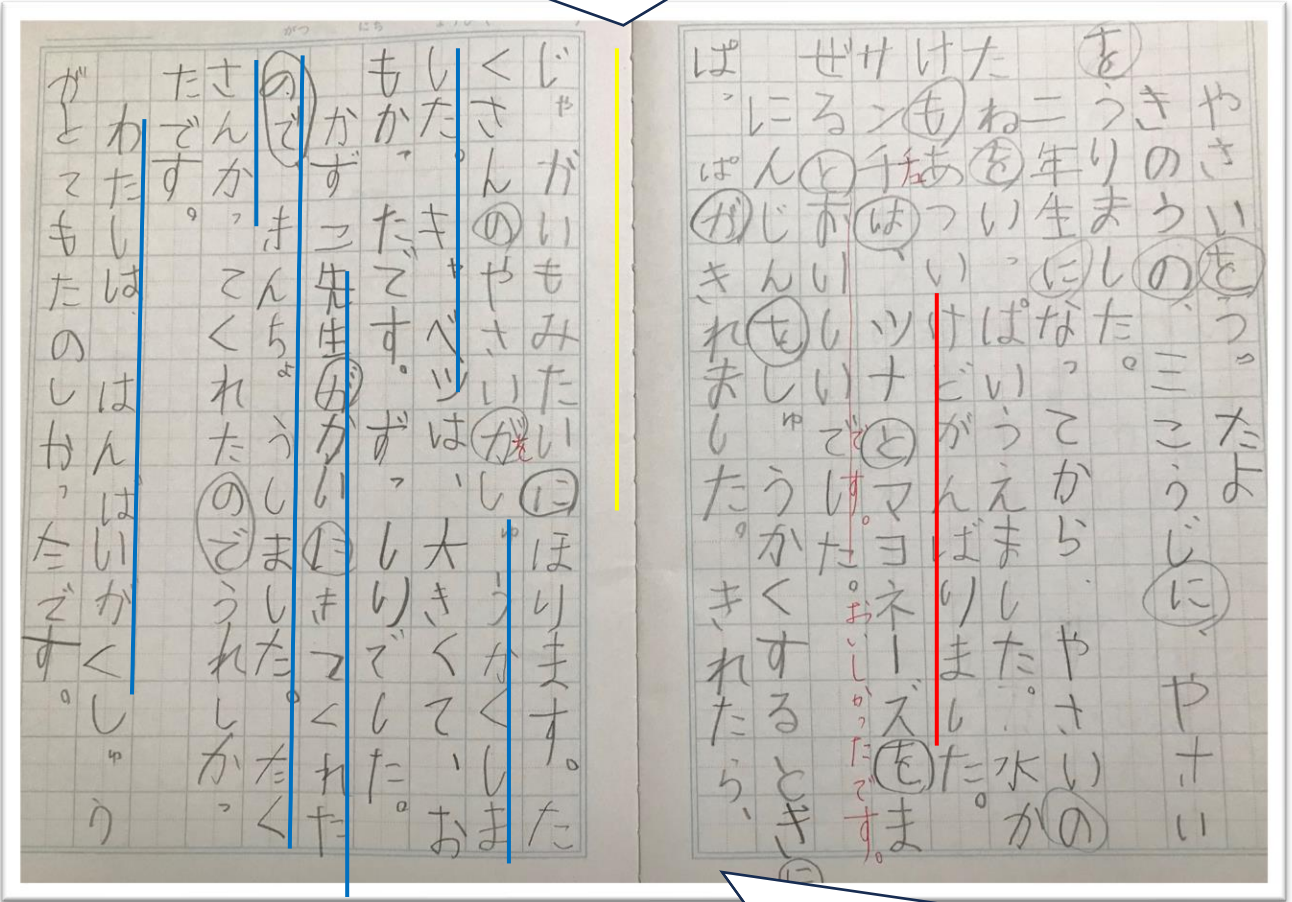
１年生９月の日記



- 文字は丁寧にかけている。
- 一語文、二語文の文章構成になっている。
- ほとんど名詞のみで、動詞がない。
- 出来事に関して、知っている言葉を羅列しているのみ。

課題・・・語彙力、日本語文法力

２年生３月の日記

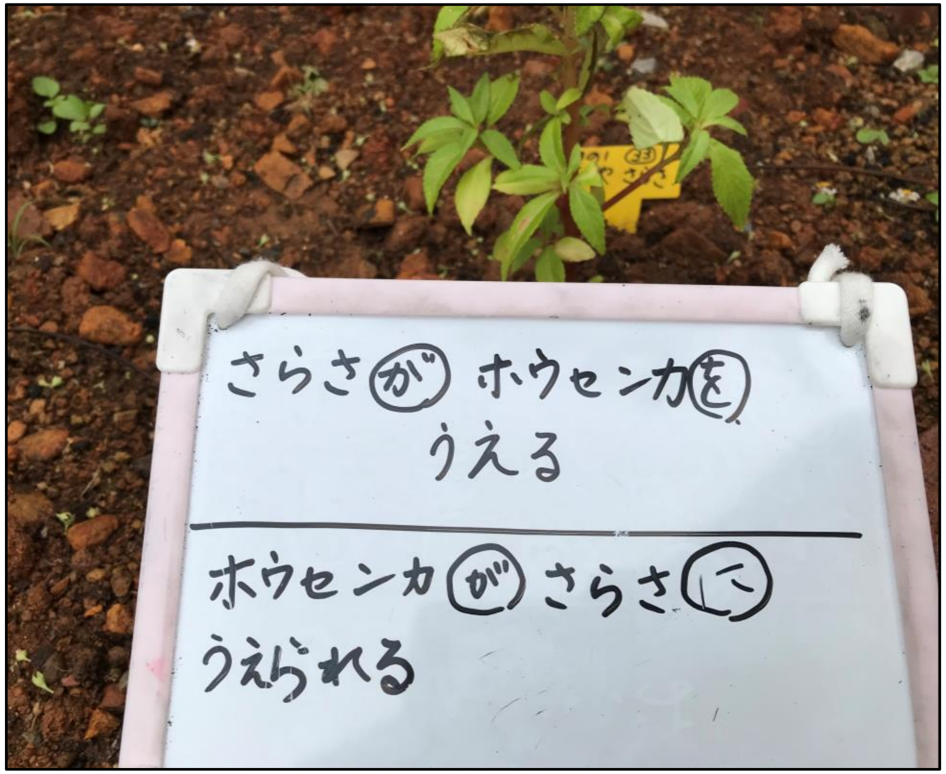


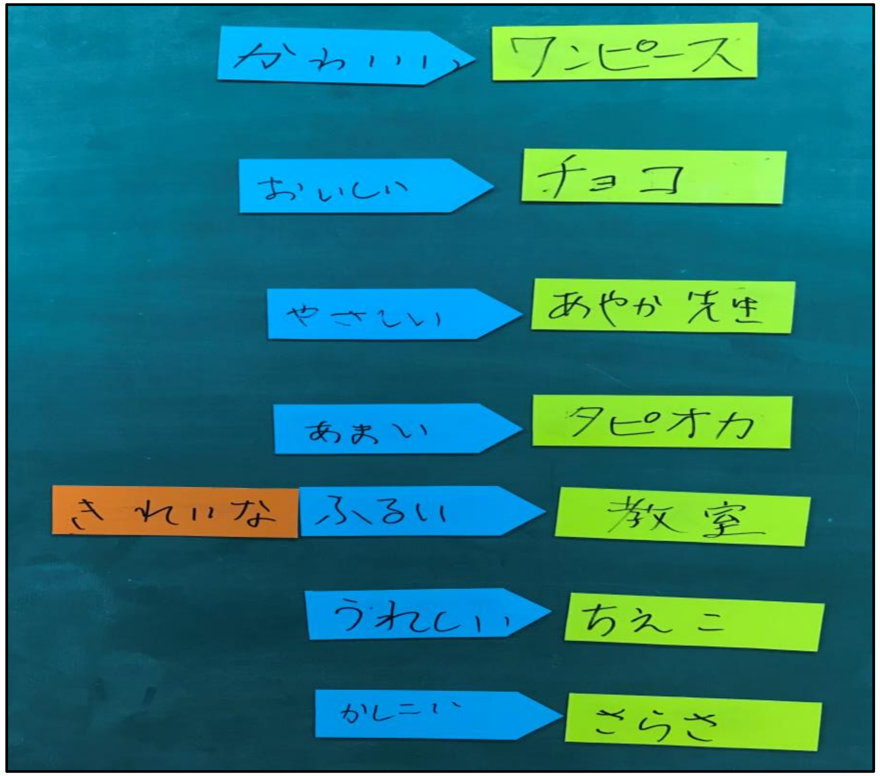
体験活動の成果
物事の概念が豊かになり、言葉を獲得していく思考方法が身についてきた。それにより、比喩表現などを用いて体験したことや気持ちを書くことができるようになった。

今後の課題・・・助詞の用法、動詞・形容詞の活用

3・4年時の指導目標

・日本語の語彙力、文法力を高め、
　聞こえにくい自分に自信を持ちながら、
　自分のことを適切に説明することができる。

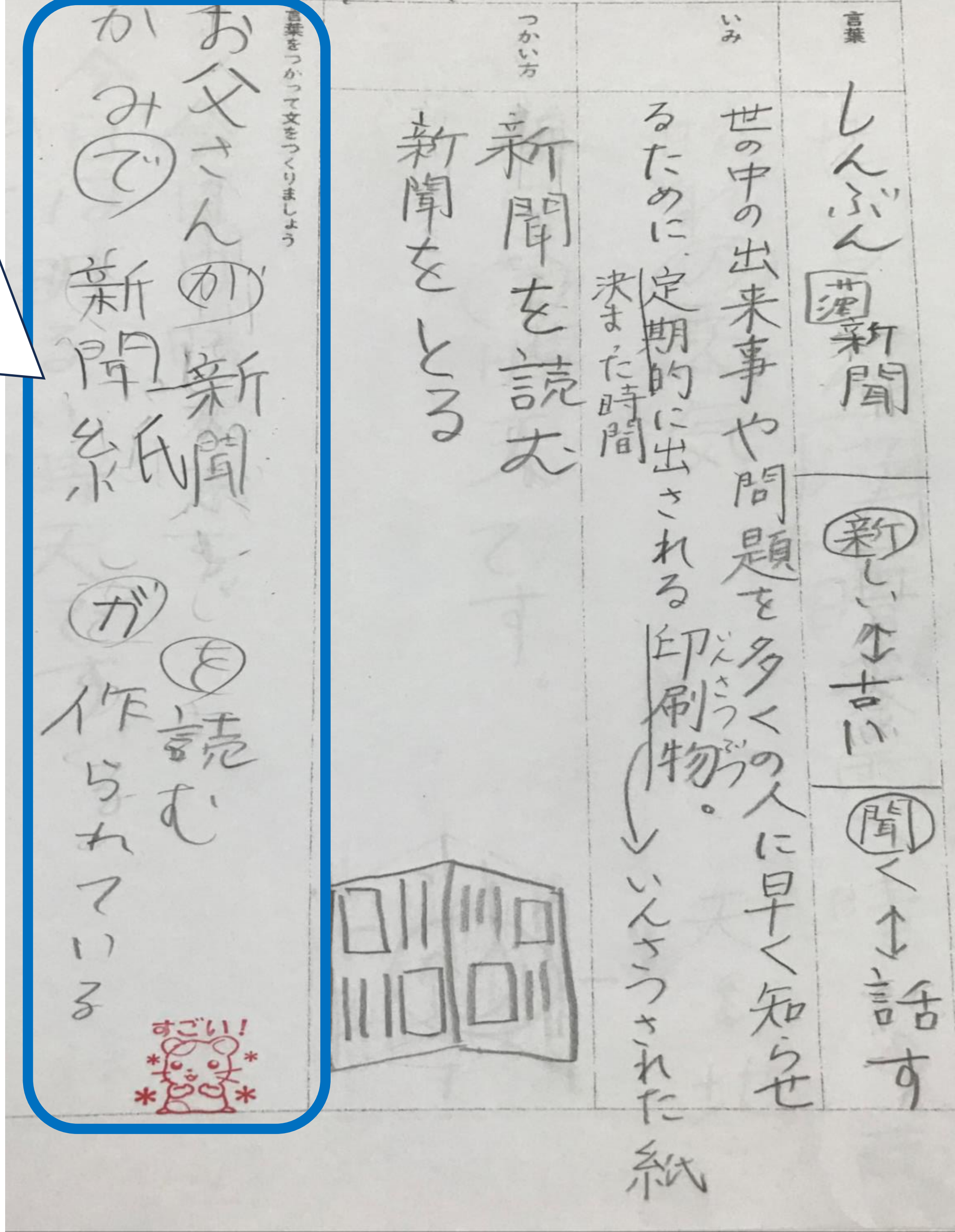




語彙力を高める指導

ア　未獲得語彙
イ　辞典に載っている定義
ウ　辞典に載っている例文
エ　漢字表記
オ　写真や絵
カ　反意語
キ　対義語
ク　類似語
ケ　同義語
<u>**コ　児童の生活にちなんだ例文づくり**</u>

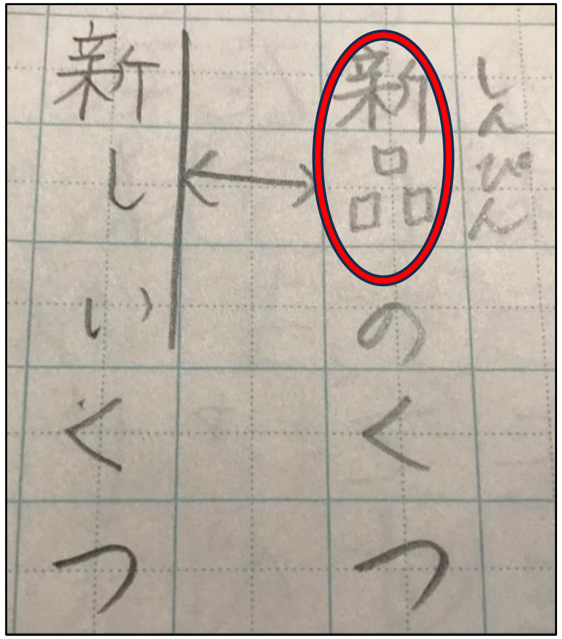
最も大切なこと
児童の生活にちなんだ文づくり
（週に2～3語程度）

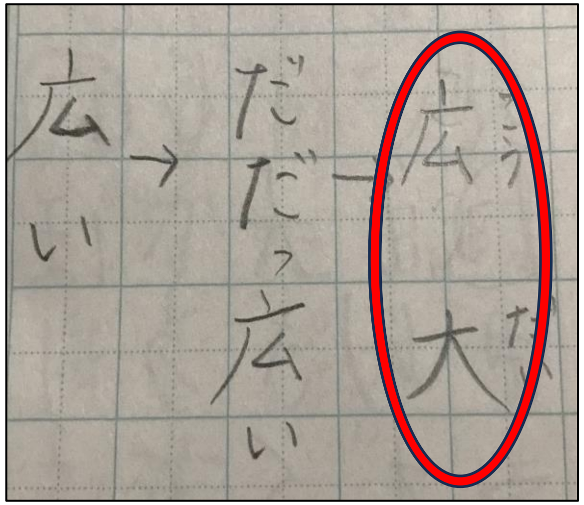


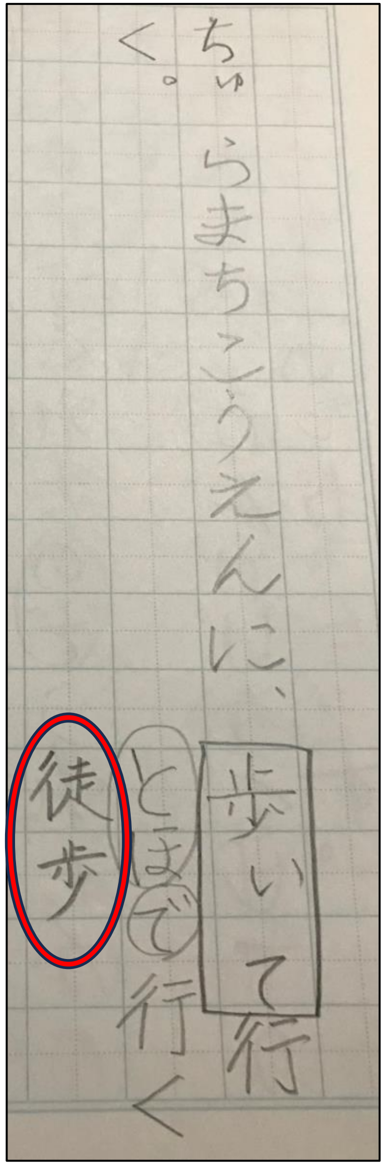
語彙はネットワークで考える

語彙力を高める指導

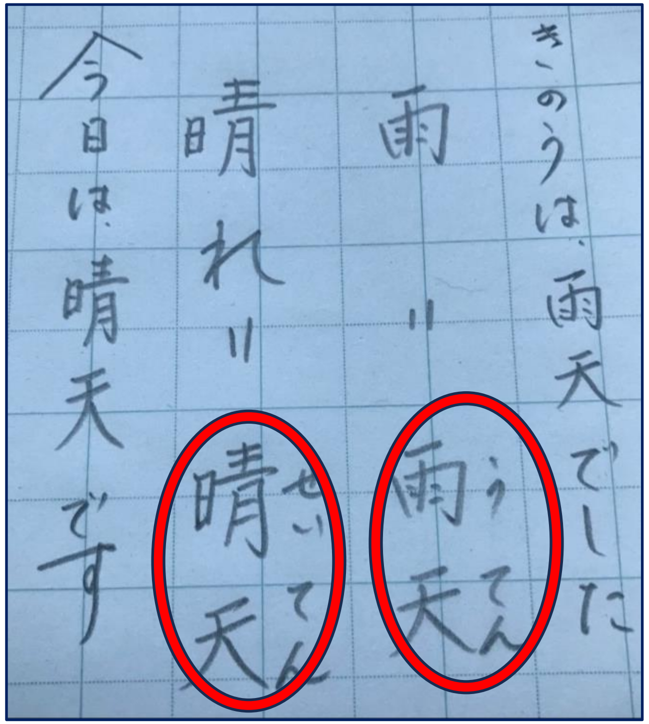
日常生活の中で！

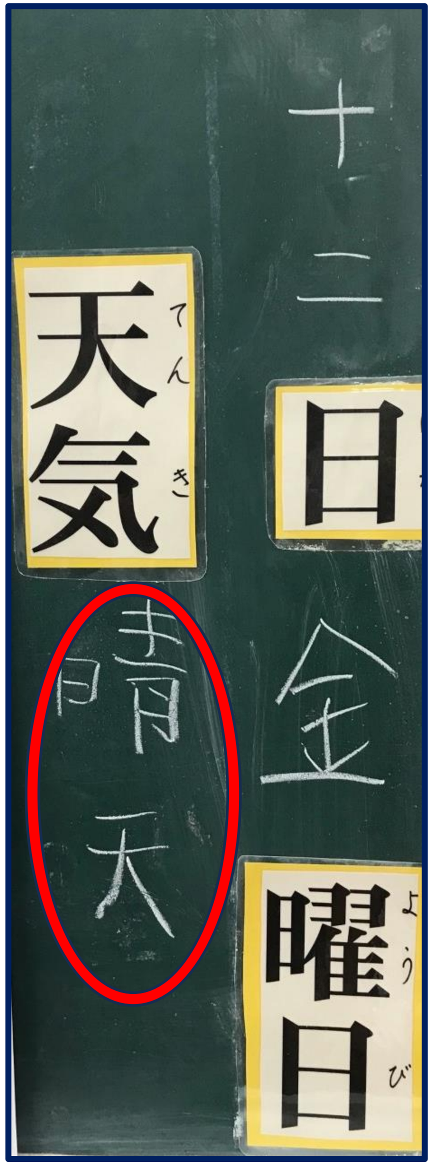






日常生活の中で出てきた言葉を教師があえて言い換える。それにより、一つの言葉でも様々な言い回しがあることに気づかせ日常的に使えるようにする。

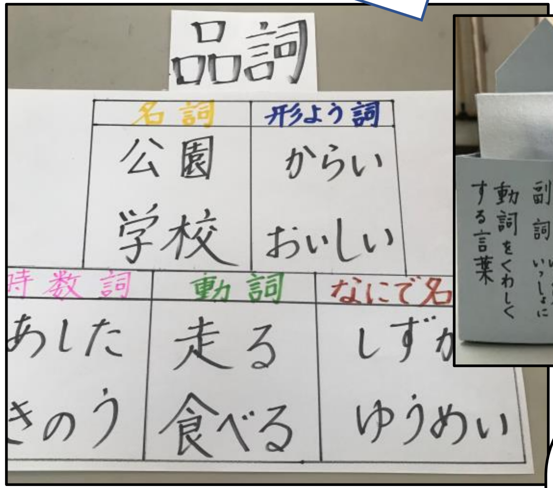




日本語文法指導

品詞分類（カテゴリー化）

品詞も分けられるそれぞれのカテゴリーに分かれている。



教室に入ったら
手を洗おう
仲間分けしたら・・・
教室は名詞
〝に〟は助詞
入ったらは動詞で
基本の形は「入る」
だね〜

日本語文法指導の最初に、動きを表す言葉は動詞、様子を表す言葉は形容詞、時間や数を表す言葉は時数詞・・・と言葉を分類しました。

そして、助詞が名詞や動詞、形容詞などを繋ぐ、「機能語」として存在することを理解させました。

品詞カードを使う意味は、きこえに困難のある子が、文を正しく読み取る為に文の構造が可視化されていれば、理解の手がかりになることだと感じました。

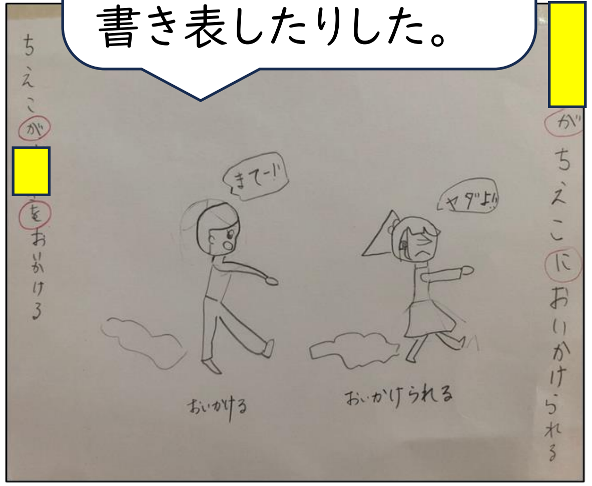
※難聴児支援教材研究会のHPを参考に指導を行った

日本語文法指導

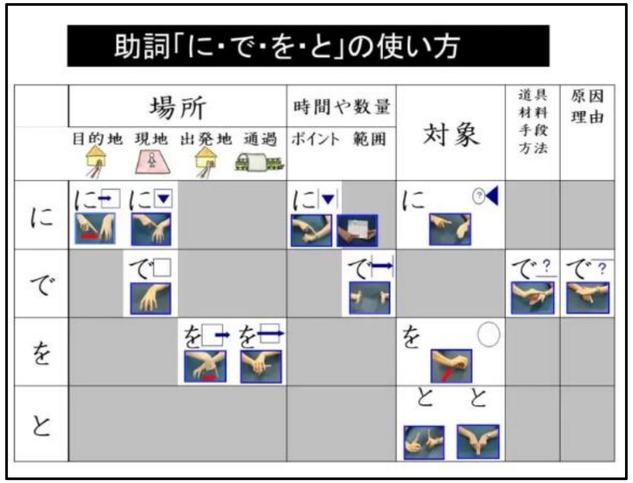
助詞カード

実際に動作化する時に使う助詞カード。助詞を視覚的に示し、動作化することで、助詞の理解が深まる。

助詞カードを持っておいかけっこをし、その様子を児童と文に書き表したりした。



助詞手話記号



助詞に意味をもたせて表すことで理解して使うことに繋がる。

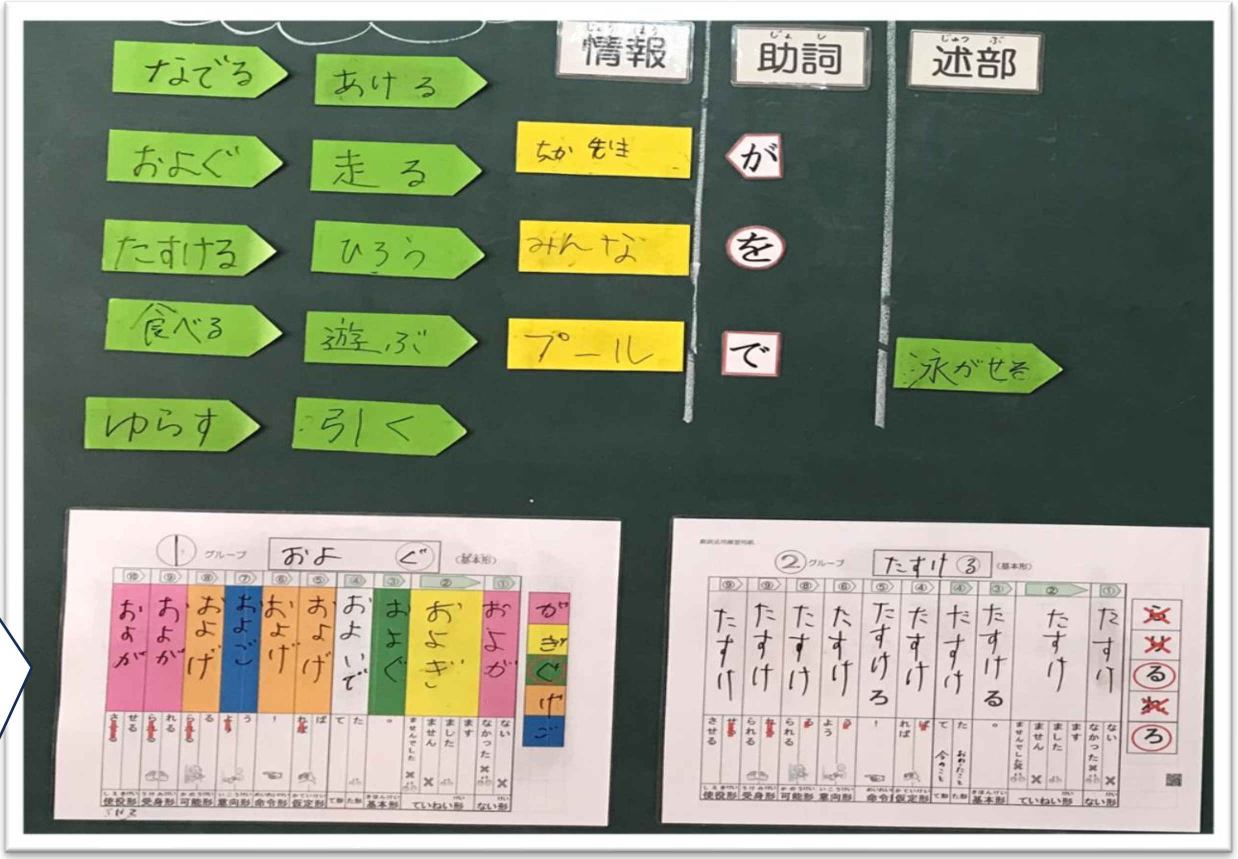
はさみで切る

はさみを使って切るという意味なので、〝で〟の時に、「使う」の手話を用いる。ハサミ+で（使うの手話）+切る。

日本語文法指導

品詞カードを使った動詞の指導

聴覚障害児は動詞の語彙数が極端に少ないといわれている為、意識して動詞を集め、活用する練習を行う。その際、活用のルールを覚えるために動詞活用シートを使う。



動詞活用シート

過去形＋丁寧な言い方

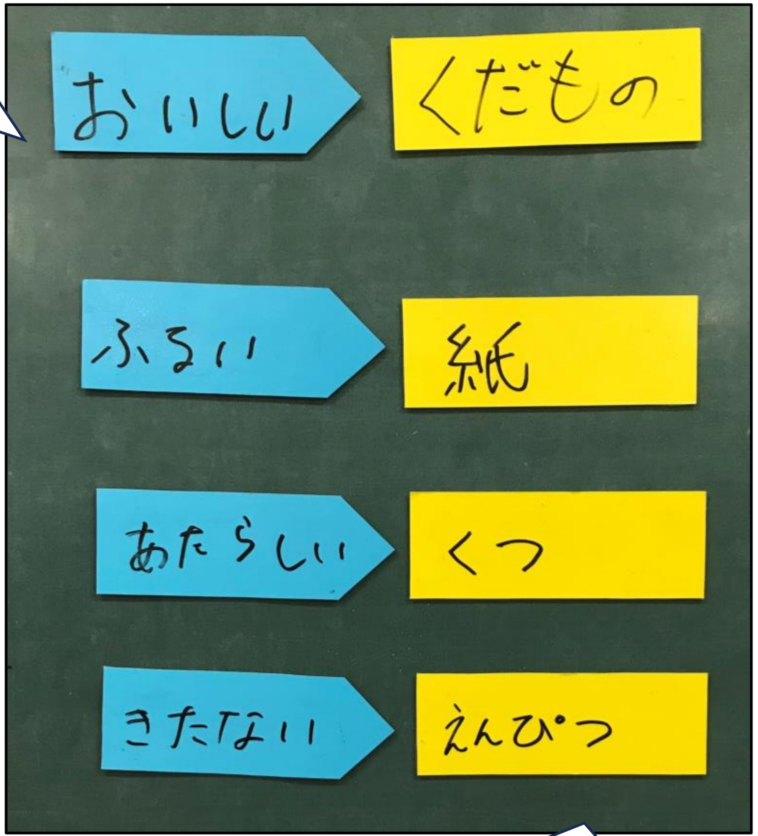
日本語文法指導

品詞カードを使った形容詞の指導

品詞カードを使って、形容詞と名詞のつなぎ方を学ぶ!
どんなテーブル? → せまいテーブル
どんなたたみ? → ひろいたたみ

形容詞も活用する。動詞よりは活用の仕方が分かりやすいため、理解がスムーズ。

形容詞活用シート



形容詞と名詞をつなぎ方を理解すると、「私はおいしい果物を食べる」など、長い文がつくれるようになる。

休み時間に形容詞の活用について品詞カードで確認しながら遊ぶ児童の様子↓

日本語文法指導

品詞カードを使っての授業の様子

情報、助詞、述部に分け、助詞手話記号や板書タイプの助詞カードを使用し、文を詳しく長くしていく練習。

聴覚障害児が苦手とする使役文！
品詞カードを活用して文を構造化することで理解の助けとなる。

文法指導（3年時）

コロナで分散登校が多かったが、一人学級であることから、毎日の登校を許可していただき、文法指導を集中的に行った。

	項目	内容	取り組み方法	結果
6・7月	助詞	助詞「が」「を」の指導	助詞カードを使用し、文に合わせて動作化した。	会話で適切に使えるようになった。
	動詞	動詞は「動きを表す言葉」であることを抑える。 動詞集めをする。	動作化して、それに合う動詞を覚え掲示した。基本形は「ウ段」で終わることも確認した。また、動詞ゲーム（カードに書かれた動詞を動作化する。反対に動作化したものに当てはまる動詞を言う。）で楽しみながら動詞を身につけることができた。	動詞の語彙数が格段に増え、日常の会話の中で使用するようになった。
8・9・10・11月	品詞分類	品詞の種類とカードの色を覚え、仲間分けをする。	言葉はそれぞれ分類することができることを抑え、分類の練習後校内の掲示板に書かれた文章を品詞分類し、意味を理解する活動をゲーム感覚で行った。	短い文章であれば、意味が分かるようになった。
	動詞	動詞をグループに分け活用方法を学ぶ。 自動詞、他動詞の習得する。	動詞はその活用によって3つのグループに分かれることを知り、グループ分けを行った。動詞活用表を使用し、活用方法を知った。 助詞「が」が何につくかによって自動詞、他動詞どちらを使えばよいかが分かった。	動詞の活用パターンを理解し、日記等で適切に使用できるようになった。 自動詞、他動詞の違いに気づいた。
	助詞	助詞手話記号を覚える。	「に」「で」「を」の助詞手話記号を覚え、シーンに合わせた助詞手話が使えるように繰り返し練習を行った。	会話や文章の中で、適切な助詞が使えるようになった。
	形容詞	形容詞は「様子を表す言葉」であることを抑え、形容詞集めと仲間分けをする。 活用方法を覚える。	知っている形容詞を「気持ちを表す形容詞」「目で見てわかる形容詞」「味を表す形容詞」「肌で感じる形容詞」に分けて掲示し、反対語があるものは反対語も一緒に覚えた。また、基本形は「イ段」で終わることを抑えた。 形容詞活用表を使って形容詞の活用方法を繰り返し練習した。	形容詞の語彙数が増え、活用方法を身につけたことで、見たことや感じたことの状態や様子が分かりやすくなった。
	時数詞	時数詞の理解と時数詞集めを行う。	時間や数を表す言葉を「時数詞」ということを知り、時数詞集めを行った。 過去、現在、未来を表す言葉に分け、それを使って文章を繰り返し書いた。	適切な時数詞を用いながら、日記を書く事ができるようになってきた。
12～3月	構文	名詞句の意味の理解と活用	動詞や形容詞の形の変化を確認しながら、二語文、三語文での名詞句作りをした。 例）犬はかわいい→かわいい犬　　私が花を摘んだ→私が摘んだ花	名詞句の入った文の意味を理解し、書けるようになった。
		受動文の理解と活用	能動文「AがBを追いかける」受身文「BがAに追いかけられる」等を授業の中で動作化しながら受動文を身につけていった。	能動文で聞いたことを受身文に楽しみながら言い換える姿が見られた。
		授受文（やりもらい文）の理解と活用	授受文お助けカード（難聴児支援教材研究会HP参照）を作成し、動作化して身につけていった。	日記や日常生活等で、間違いなくつかえるようになってきた。
		複文の理解と活用	2つの文の１つの名詞に着目し、１文にまとめる練習を重ねた。	長い名詞づくりはできるようになった。

文法指導（4年時）

品詞カードを使っての授業に慣れ、様々な文の読み取りや文作りを行った。

	項目	内容	取り組み方法	結果
4・5月	なにで 名詞	形容詞となにで名詞の違いと、なにで名詞の特徴を知る。例文づくりを行う。	基本形が「イ段」で終わっても、「とても～だ」に当てはめるとピッタリ合う言葉であれば、なにで名詞になることを抑える。「～な」の後には名詞、または時数詞。「～に」の後には動詞。「～で」の後には形容詞が続くことを抑え例文づくりを行う。	「元気な私」「きれいなお母さん」「有名な先生」など、毎朝の例文づくりを楽しんでいた。
	副詞	副詞の意味を知り、副詞を使って文章を作る。	大塚ろう学校の実践を参考に、副詞はを3種類（状態、程度、呼応）に分けて学習した。副詞は、他の文節を修飾し、文の意味を詳しくすることができることを抑えた。雨降りに外に出て、「雨がザーザー降っている」少し止みかけて「しとしと降っている」ほとんど止んできて「雨がポツポツ降ってるね」と経験から副詞を学ばせた。	日記の中に「かなりすっぱいみかんでした。」「チクチクする洋服でした」「少しも痛くないです」など、副詞を使い、深みのある文章が書けるようになった。
5月	比較文	比較文の意味を知り、文作りや読解を行う。	比較文は2つ以上の事物や人を比べるときに使い、優劣関係を示す際は形容詞を用いることをことを抑える。実際に校庭のひまわりと児童を並べて写真を撮り、「Aはひまわりより低い」と写真と文を並べて掲示するなど、比較文の定着まで、あらゆる場面で同じように取り組んだ。	比較3問題クリア。 「先生はAより高い」「人参はゴボウより細い」など、日常的に使用する様子が見られるようになった。
6月	使役文	使役文の意味を知り、文作りや読解を行う。	使役文は、動詞に「せる」「させる」を付けて、ある動作を人にさせることであることを例えを用いながら教える。自分の経験と照らし合わせながら文作りを行った。 例）お母さんがAに、野菜を食べさせる。 使役文を読解では、文章を読んでどんな様子であるかを絵に表して確認した。	「黒板消して」と担任に頼まれた際「先生がAに黒板を消させる」と進んで使役のかたちに変換するなど、日常で適切に使用できるようになった。
7月以降	文作りの練習 文の読み取り練習	助詞の級別テスト	助詞の級別テスト（10級～1級）の前に、必ず復習を1時間入れてからテストを行った。合格した際は常に合格証を掲示した。	全て1回で合格したが、満点ではなかったものは追加で補習を行った。
		文作り ゆんたく（おしゃべり）リレー	楽しく文作りを行う為に、テーマを決めてリレー形式で話を繋ぐゲームを行った。 例）テーマ「助詞の〝にでを〟」→マックに行った→マックでポテトとジュースを買った→「また来るね！」と言って、マックを出た→天気がいいので公園で食べた　等	休み時間も「テーマを決めて文作りがしたい」と言うほど、楽しく文作りを行った。
		難聴児支援教材研究会及び、市販のドリルの活用	難聴児支援教材研究会のドリルや、HPからダウンロードしたプリント、また、市販の文章読解ドリルを活用して、文章読解力向上を目指し、取り組んだ	学期まとめの文章読解テスト等は、8割以上とることができるようになった。

※文法指導は、常に視覚化、動作化、繰り返し学習を意識して行った。また、時数は焦らず、児童の理解の程度を確認しながら進めた。
※4年時7月以降は自活の中心を障害認識に変えたが、文作りや文の読み取り練習は学年終わりまで継続して行った。

アセスメント結果

１、2年では課題であった認知・思考・語彙・文法、すべての面において、3年生１１月には大幅に改善されているが、文章読解力、論理的思考には、依然、課題が残った。

	小3年・5月	小3年・１１月	備考
絵画語彙発達検査	語彙年齢[redacted]歳[redacted]か月 評価点[redacted]	語彙年齢[redacted]歳[redacted]か月 評価点[redacted]	検査にある上位概念語（果物、動物、乗物等）や動詞（こぐ、吠える、鳴く等）、熟語（配達、勝負、読書等）が習得され大きく伸びた。
Jcoss（日本語理解テスト）	通過項目数[redacted]/20 年長レベル	通過項目数[redacted]/20 小[redacted]レベル	助詞、動詞の活用、受動文、位置詞、比較表現、名詞修飾などが習得され大幅に伸びた。
助詞テスト 形容詞テスト	[redacted]点 [redacted]点	[redacted]点（80点以上合格） [redacted]点	助詞の指導によって大幅に伸びた。 形容詞の指導（活用方法等）によって大幅に伸びた。
Leading Test	（小3年8月実施） 低学年用偏差値[redacted]	（小4年10月実施） 中学年用偏差値[redacted]	読解力は向上。語彙力に課題が残った。 主体的に語彙を獲得する意識を育てる。
比較3問題	（小3年8月実施） Q１[redacted] Q2[redacted] Q3[redacted]	（小4年7月実施） Q１[redacted] Q2[redacted] Q3[redacted]	助詞「より」の習得、論理的思考力の向上により3問とも正解。

上記以外にも、心の理論課題、動詞テスト、形容詞テストなど児童の実態把握に必要な検査を行った。

セルフアドボカシースキル

全児童対象の障害理解授業をきっかけに
セルフアドボカシースキルの大切さに気付く（4年生）

　小学校全児童対象に、お互い得意なこと、苦手なことといろいろあるけれど、「みなんちがってみんないい」と多様性を受け入れる心情をねらいとした授業を行った。
その際、それぞれの児童の困り感にも触れ、「あなたならどのように接してあげる？」というところを考えさせ、共生社会への気づきを促した。

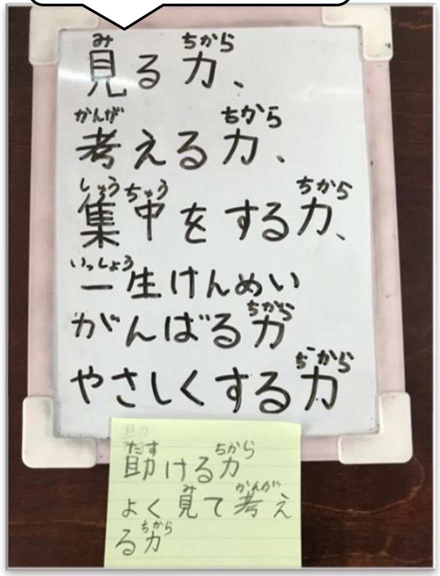
　4年生の6月、全児童対象に様々な障害の理解に繋がるように全校児童対象に講話をした際、事前に、安謝小に在籍する難聴の児童、肢体不自由の児童に、それぞれの障害についても説明することを伝え、話す内容や使う写真についても一緒に考え、PPを完成させました。
　全体での講話が終わって後、肢体不自由の児童が「私の事をみんなにしられるのがイヤだ・・・。」と泣いて登校してきたと担任から聞かされました。
　このことを聞いて、学校生活においても、仕事に就いて後も、自分の障害についてきちんと説明し、適切な支援を求めることはとても大切な力であることは間違いないので、難聴児、肢体不自由児2人を対象にセルフアドボカシースキルへの気づきをねらった授業を自立活動の中で行おうと決め、1週間後に難聴児、肢体不自由児2人を対象にした授業を行った。

セルフアドボカシースキル

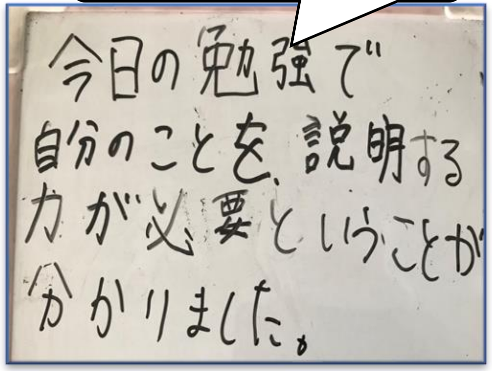
肢体不自由の後輩と共に「自分たちにこれから必要な力は何か？」考える

自分の事（障害の事）を説明する力が必要だね！

授業開始時



授業の振り返り



授業のねらいは教えるのではなく気づかせる！

セルフアドボカシースキルの大切さへの気づき

①児童それぞれに、今必要な力は何かと尋ね、ホワイトボードへ記入させる。
②2人が今がんばっていることについて担任より写真や動画で紹介する。
お互いに頑張っている様子を認め合い「ありがとう」と手話で語り合うなど温かい雰囲気で授業がスタート
③補聴器をかけた聴覚障害者へ後ろから声をかけたが反応がない。「無視された」と声をかけた人が怒っている場面
「えー。ひどい・・・。補聴器かけてても後ろから呼ばれたら聞こえないよ。」と話す児童。
④肢体不自由者が転んで立ち上がれずにいる時、「こんな所に座り込んで迷惑だね」と噂されている場面
「この人たちひどいね・・・。」眉間にしわを寄せ話す2人。しばらくして、「ん？もしかして、この人たちは補聴器をしていても後ろから声かけられたら聞こえないって知らないのかも！」「転んでいる人が足の筋肉が弱いって知らないのかも」と気づく。その後、難聴の児童が肢体不自由の後輩の方に体を向けて、「自分のこと（障害の事）を説明する力が必要だね！」と伝えると「そうだね！私ももっと詳しく自分のことを説明したい」と返す後輩。
④自分の障害について自分で説明すること、そして周りと一緒に環境を整えていくことが大切だと気付かせる。
担任から、「障害について説明がないと周りは何をどう支援していいのか分からない。まず、自分の障害について深く知り、それによる困り感を伝えて周りの人と一緒に必要な支援について考え、自分たちで環境を整えていくことが大切なんだね」と話し、授業を締めくくった。

セルフアドボカシースキル

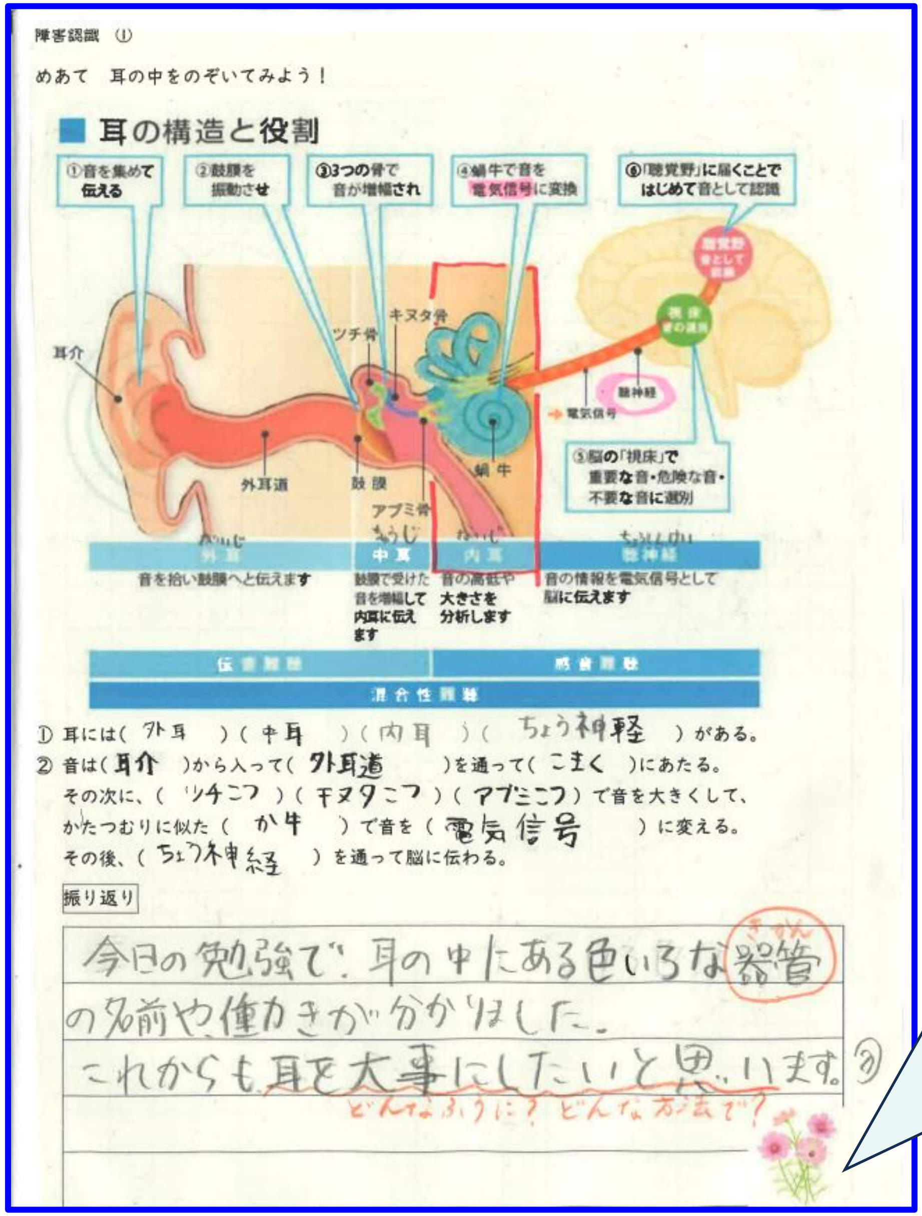
自己の障害認識を深める。
実感をともなった理解を促す。（4年生）

2月に交流学級にて「自分で自分の障害について説明する」為に自分の障害理解を深める。

実施月	テーマ	授業内容	児童の主な反応 振り返りシートの内容
7月	聴覚障害って何だ？	ろう者や難聴者について知る。	私は補聴器をしたらきこえるから難聴者だ！
8月	難聴にも種類があるんだね！	それぞれの難聴の種類について知る。	自分が感音難聴だということに気づく。「このきこえ方は、音がゆがんでいるんだね。」
9月	きこえ方にもレベルがあるんだって！	聞こえの程度によって 軽度～重度まであることが分かる。	自分は重度難聴であることにきづく。 「えっ！私って重度なの！？」
	デシベルやヘルツって何？	音の大きさや高さのことで、自分の裸耳、補聴器装用時の閾値を知る。	補聴器のおかげで音が少しきこえるんだね。補聴器を大切にしよう。

セルフアドボカシースキル

自己の障害認識を深める。
実感をともなった理解を促す。（4年生）



障害認識 ①

めあて 耳の中をのぞいてみよう！

■ 耳の構造と役割

① 耳には（ 外耳 ）（ 中耳 ）（ 内耳 ）（ ちょう神経 ）がある。
② 音は（ 耳介 ）から入って（ 外耳道 ）を通って（ こまく ）にあたる。
その次に、（ ツチこつ ）（ キヌタこつ ）（ アブミこつ ）で音を大きくして、
かたつむりに似た（ か牛 ）で音を（ 電気信号 ）に変える。
その後、（ ちょう神経 ）を通って脳に伝わる。

振り返り

今日の勉強で耳の中にある色いろな器管の名前や働きが分かりました。
これからも耳を大事にしたいと思います。
どんなふうに？どんな方法で？

めあて 「耳の中をのぞいてみよう」

耳の構造を知ることで、感音難聴である自分はどこに障害を受けているのか医学的な理解を深める。

耳の中にはどのような器官があって、音はどこから入って最後、聴神経に伝わるのかを図を手かがりに考えた。
「蝸牛ってカタツムリみたいだね・・・」「私は内耳に障害をうけているから音がゆがんで、本当の音と違うんだね」というつぶやきが多く聞かれた。

（児童の振り返り）
今日の勉強で、耳の中にあるいろいろな器官の名前や働きが分かりました。
これからも耳を大事にしたいと思います。
どんなふうに？どんな方法で？
「眠る前に補聴器と耳の中をきれいにふく。」「耳鼻科で毎月ちゃんとみてもらう」

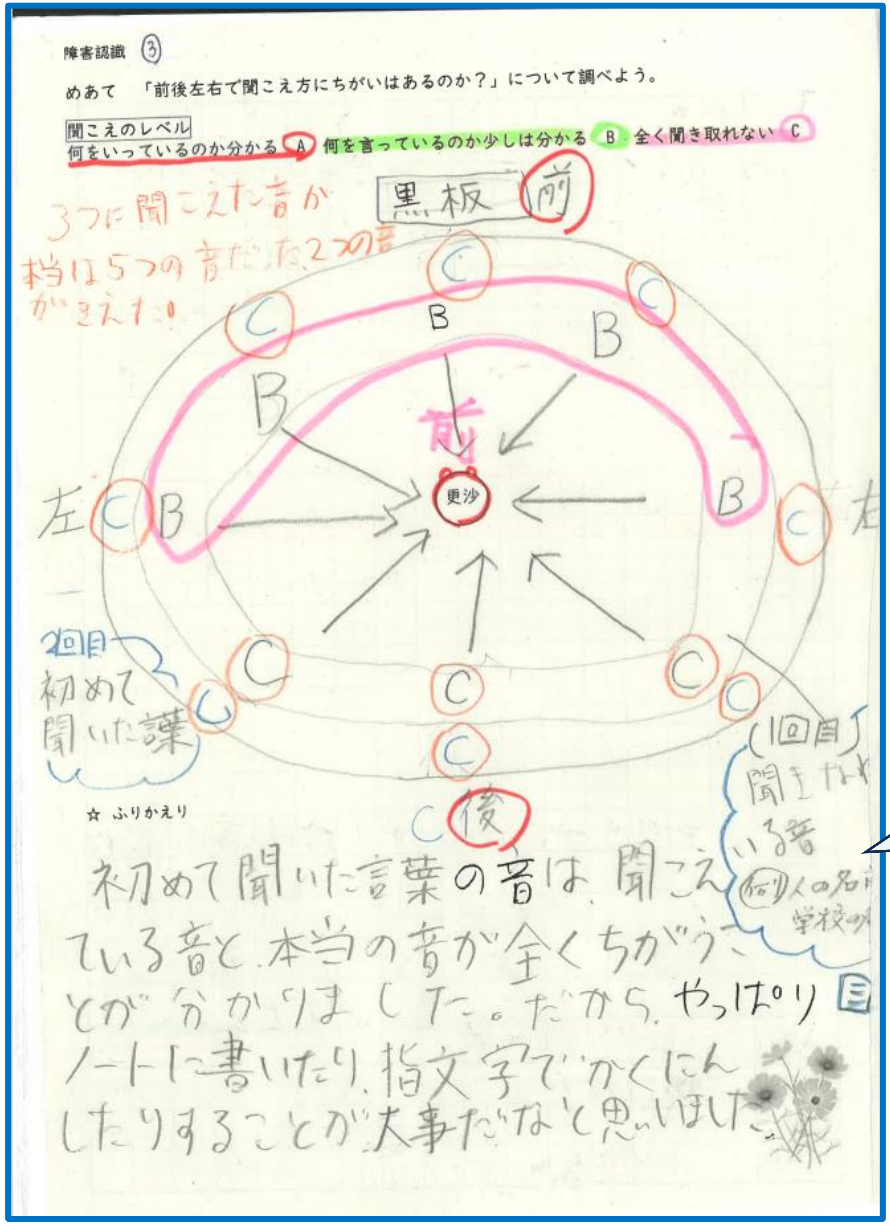
セルフアドボカシースキル

自己の障害認識を深める。
実感をともなった理解を促す。（4年生）

実施月	テーマ	授業内容	児童の主な反応 振り返りシートの内容
10月	前後左右、きこえやすいのはどこ？	前後左右、16方位からのきこえ方を知る。難聴学級、交流学級両方にて行った。	後ろから話しかけられるときこえづらいし、何を言っているのか全く分からない。
	環境によってきこえ方は違うのかな？	交流学級でも静かなときはきこえるけど、雑談の多いときはきこえにくい。	授業中は静かにしてもらいたい。 扇風機などの音ができるものは近くに置かないでもらう。
	きこえている音は本物か？	単音、単語での聞き取りチェックを行う。間違えたきこえ方になっている事に気づく。	「きこえている音と本当の音はこんなにも違うんだね！これはちゃんと書いて確認しなきゃ！」
	私の話し方はみんなと同じ？	タブレットの音声認識機能を使って、話し方を視覚的にチェックする。	「難聴あるあるにあった！きこえない音は言うのも苦手って」
11月	適切な情報のもらい方を考えよう。	これまでの気づきから、情報を適切にもらうにはどうしたらよいかい考える。	マスクをはずして話して欲しい。 大事なことは書いて欲しい。

セルフアドボカシースキル

自己の障害認識を深める。
実感を伴った理解を促す。（4年生）



めあて「前後左右で聞こえ方にちがいはあるのか」

１回目の聞きなれている言葉（例えば、自分や先生の名前、おはようの挨拶など）は、何を言っているのかその意味まである程度理解することができる。しかし、初めて聞く言葉や聞きなれない言葉（例えば、光合成や転入生の名前）は、音の間違いが多くあった。その際、「えっ！ほとんど違う」「なんて言っているのか、想像もできない」と驚いた反応だった。

（児童の振り返り）
初めて聞いた言葉の音はきこえている音と本当の音が全く違うことが分かりました。だから、やっぱり、ノートに書いたり、指文字で確認したりすることが大事だなと思いました。

授業後、後方からの音は聞き取り辛いことを知り、階段等でも後方に気を付けるようになった。

セルフアドボカシースキル

自己の障害認識を深める。(4年生)

実施月	テーマ	授業内容	児童の主な反応 振り返りシートの内容
11月	私のことどうやって伝えよう。	自分の障害の状態と、それにおける困り感、必要な支援をお願いするためにはどのような方法がよいか考える。新聞?朝の会?1時間とってもらう。	ちゃんと伝えたいから、1時間使ってもいいですか?って聞いてくる。(自分の事を知ってもらいたい)
12月	自分を説明するパワポを作成しよう。 (3時間)	相手に伝わりやすい日本語で自分の障害について説明する文章を考える。 既にしてもらっている支援については「ありがとう」ベースで伝える。	文章を長くすると言葉がねじれるから、短くはっきりとがいいね。 (主体性が見える。確実に伝えたい)
1月	交流学級の皆へ感謝とお願いを伝えよう (3時間)	文章の最終確認 適切な声の大きさ、スピードを考える。 発表の練習をする。	写真や図、絵も入れた方がみんな分かりやすいかも!(より深く自分を知ってもらいたい。主体性が見える)
2月	大好きな4年3組のみんなへ	交流学級で、自分の障害の状態を説明し、これまでの感謝と必要な支援を適切に伝える事ができる	早く発表したい。わくわくする!(主体性が見える) 発表後「質問はありますか?」(対話的)
3月	発表を終えて感じたこと	発表内容の振り返りと、みんなの反応を見てどう感じたかを話し合う。	私への質問の時、マスクを外して口を大きく開けてくれた。伝えるって大切だ!

セルフアドボカシースキル

自己の障害について説明する。(4年生)

目標　自己の障害について説明し、必要な支援について肯定的な視点(情報があれば〇〇することができます)で伝え、自分に必要な支援を引き出すことが事ができる。

交流学級にて聴覚障害理解授業を行う

【授業の主な流れ】

① 障害とはどんなものかについて考える
② 聴覚障害とはどんな障害か?
③ 聴覚障害の医学的な説明
　聴力の程度や種類、障害の発生時期
　コミュニケーション方法など
④ 難聴疑似体験(音源)
⑤ 聴覚障害児の発表(セルフアドボカシー)
⑥ 感想交流

児童の発表内容

・自分の聞こえの状態、感音難聴について
・聞こえている音と本当の音が違う
・発音がみんなと違う
・マスクを外して話してほしいこと
・補聴器は水に弱いなどの特性から、「水がついた手を払わないで下さい」などのお願いを伝える。

※既にやってもらっている支援については、「ありがとう」ベースで伝える。

セルフアドボカシースキル

交流学級児童の授業後の感想（4年生）

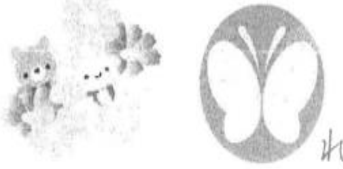
んがほちょうきをつけている時は、聞こえてると思ったけど さんが聞いている音は、ぼくたちとぜんぜんちがう音でめっちゃ聞こえにくかったので、これからさらさきさんとはなす時は、マスクをはずして をうごかして話したほうがいいと思います。あとあんまり聞こえないから1時間目から6時間目までずっとしゅうちゅうができないことがすごいと思ったのでしゅわでも話してもっとコミュニケーションをもっとふかめていってふつうに会話をできるようになりたいです。

〇〇さんがきこえている音は僕たちと全然違う音できこえにくかった。これからは、マスクを外して話した方がいいと思います。手話でも話してコミュニケーションをもっと深めて会話できるようになりたいです。

これまでは さんはほちょう器をつけたらみんなと同じように聞こえると思っていたから、知ることが出来てよかったです。

これから、難聴者と会った時などは、手話や口元を見せて話してあげたいなと思います。

ほちょうきはとっても高く、しょうげきには弱い、水やあせにぬれたらこわれるという事を覚えておきたいです。難聴者の事をたくさん知ることが出来てよかったです。



へ

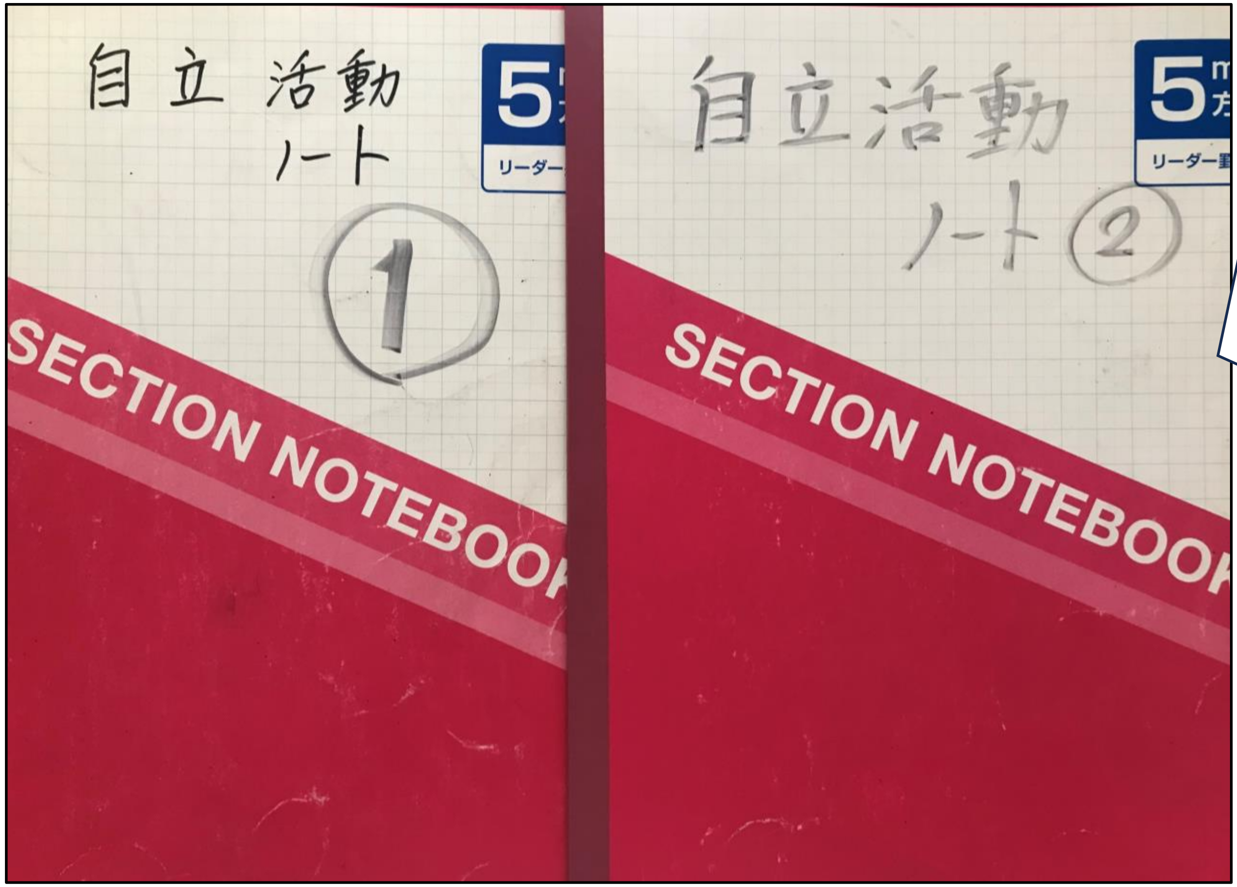
の事がいっぱい知れてよかったです。
まだ分からない手話がいっぱいあるから教えてね。

□□さんは、補聴器をつけたらみんなと同じようにきこえると思っていた。これから難聴者と会ったときは手話や口元を見せて話してあげたい。難聴者のこと、知ることができてよかった。(□□へ)□□のことがいっぱい知れてよかったです。まだ分からない手話があるから教えてね。

難聴理解の5ステップ　気付き → 知識化 → 情緒的理解 → 態度形成 → 実践行動

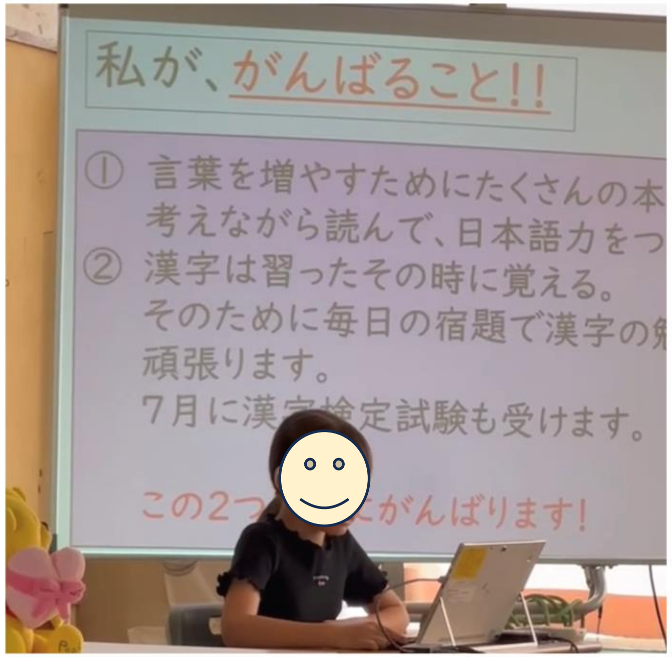
5・6年時の指導目標

・共生社会を目指して！
人間関係とコミュニケーション能力を高める



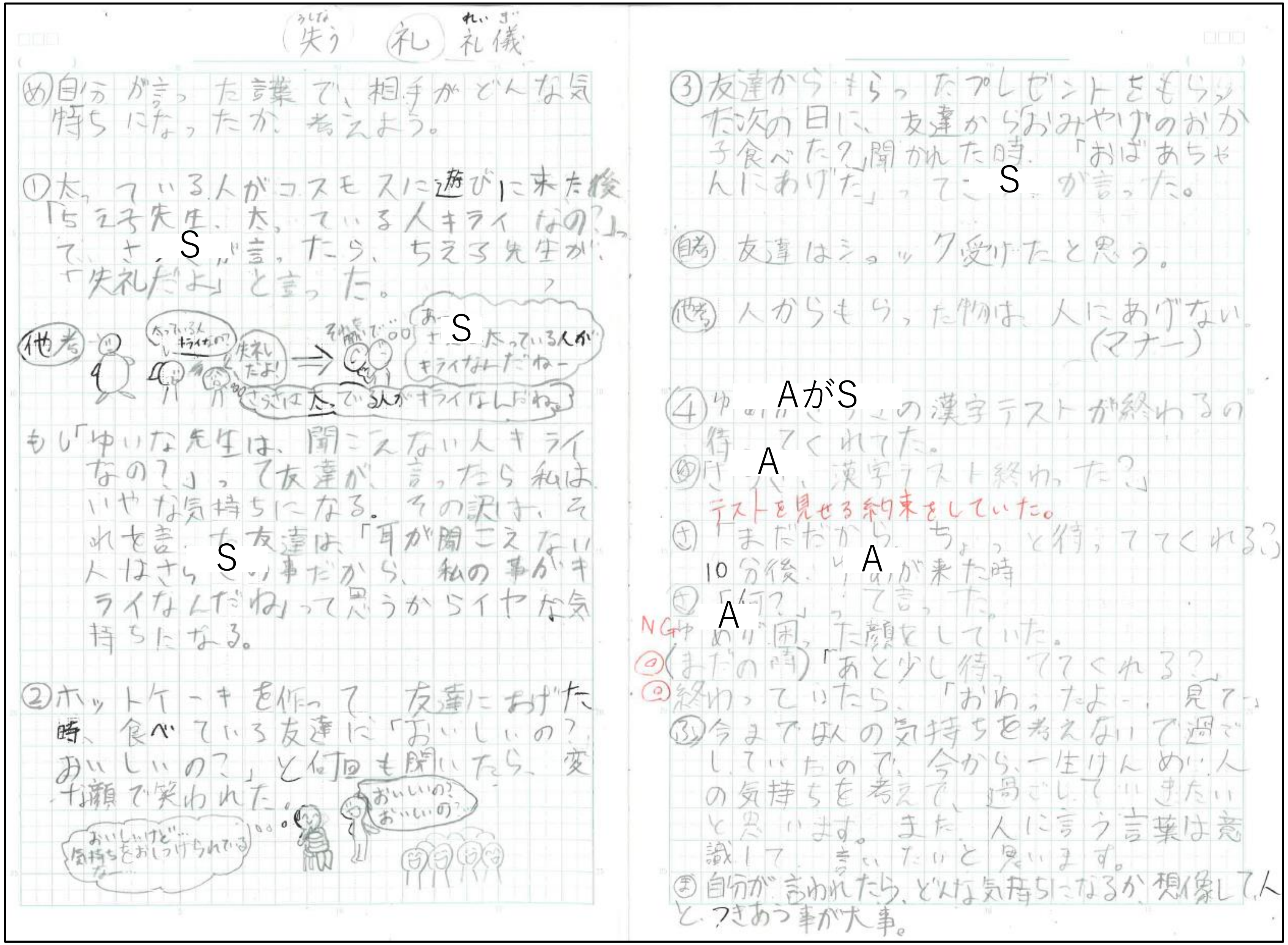
自立活動ノート
（A4サイズ ５㎜方眼ノート）
人間関係やコミュニケーション力、自己の課題や悩みについて理解を深める為に、自立活動ノートを作成し、自立活動の中で丁寧な自己内対話を行っている。

交流学級や学年に自分の障害について説明し、理解を求め支援を引き出す事ができる



人間関係とコミ力を育てる

他者の気持ちを想像する力（5年生）



失う　礼　礼儀

め 自分が言った言葉で、相手がどんな気持ちになったか考えよう。

① 太っている人がコスモスに遊びに来た後「ちえ子先生、太っている人キライなの？」ってSが言ったら、ちえ子先生が「失礼だよ」と言った。

他者

太っている人キライなの？

失礼だよ！

あーSは太っている人がキライなんだね～

さちえは太っている人がキライなんだね。

もし「ゆいな先生は、聞こえない人キライなの？」って友達が言ったら私はいやな気持ちになる。その訳は、それを言った友達は「耳が聞こえない人はさらS…事だから、私の事がキライなんだね」って思うからイヤな気持ちになる。

② ホットケーキを作って友達にあげた時、食べている友達に「おいしいの？おいしいの？」と何回も聞いたら、変な顔で笑われた。

おいしいの？おいしいの？

おいしいけど…気持ちをおしつけられてるな～

③ 友達からもらったプレゼントをもらった次の日に、友達から「おみやげのお菓子食べた？」聞かれた時、「おばあちゃんにあげた」ってSが言った。

自分 友達はショック受けたと思う。

他者 人からもらった物は人にあげない（マナー）

④ AがSの漢字テストが終わるのを待ってくれてた。

A「漢字テスト終わった？」

テストを見せる約束をしていた。

さ「まだだから、ちょっと待っててくれる？」

10分後、Aが来た時

「何？」って言った。

NG A困った顔をしていた。

◎（まだの時）「あと少し待っててくれる？」

◎ 終わっていたら、「終わったよ～。見て～」

ふ 今まで他人の気持ちを考えないで過ごしていたので、今から一生けんめい人の気持ちを考えて、過ごしていきたいと思います。また、人に言う言葉は意識していきたいと思います。

ま 自分が言われたら、どんな気持ちになるか想像して、人とつきあう事が大事。

めあて

「自分が言った言葉で、相手がどんな気持ちになったかを考えよう。」

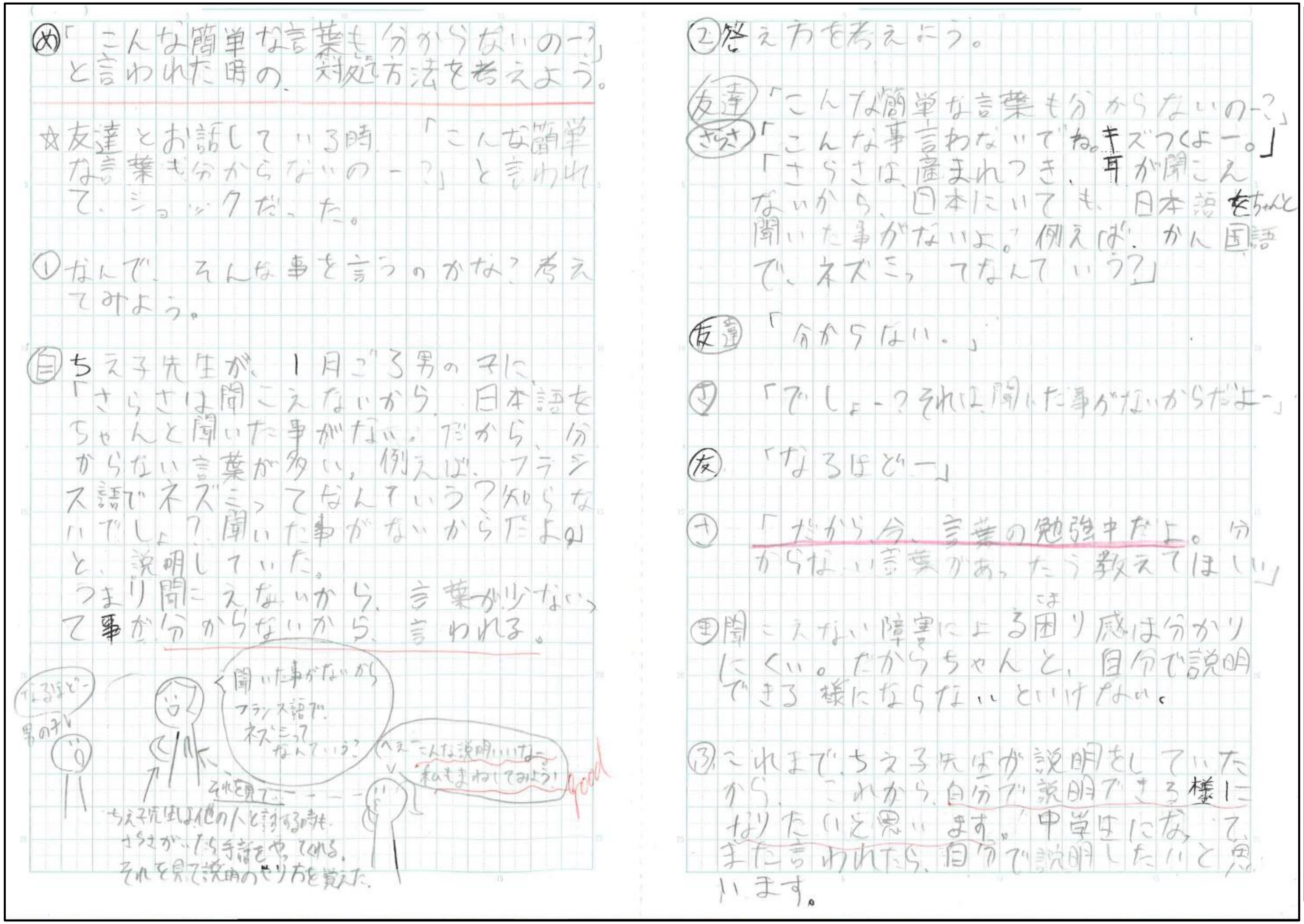
　実際の場面を取り上げ、もし自分が言われたらどんな気持ちになるかを想像させた。そして、改めて自分がとった行動で相手がどのような気持ちになったかを考えさせた。その上で、次からどのような対応をしたらよいかを一緒に考えた。

(児童の振り返り)

　自分が言われたらどんな気持ちになるか想像して、人と付き合うことが大事。

人間関係とコミ力を育てる

自分の思いをきちんと伝える力（5年生）



(め)「こんな簡単な言葉も分からないのー?」と言われた時の、対処方法を考えよう。

☆友達とお話している時、「こんな簡単な言葉も分からないのー?」と言われて、ショックだった。

①なんで、そんな事を言うのかな?考えてみよう。

(自)ちえ子先生が、1月ごろ男の子に「さらさは聞こえないから、日本語をちゃんと聞いた事がない。だから、分からない言葉が多い。例えば、フランス語でネズミってなんていう?知らないでしょ?聞いた事がないからだよ。」と、説明していた。
つまり聞こえないから、言葉が少ないって事が分からないから、言われる。

②答え方を考えよう。

(友達)「こんな簡単な言葉も分からないのー?」

(さらさ)「こんな事言わないでね。キズつくよー。」「さらさは産まれつき、耳が聞こえないから、日本にいても、日本語をちゃんと聞いた事がないよ。例えば、かん国語で、ネズミってなんていう?」

(友達)「分からない。」

(さ)「でしょー?それは聞いた事がないからだよー」

(友)「なるほどー」

(さ)「だから今、言葉の勉強中だよ。分からない言葉があったら教えてほしい」

(ま)聞こえない障害による困り感は分かりにくい。だからちゃんと、自分で説明できる様にならないといけない。

(ふ)これまでちえ子先生が説明をしていたから、これから自分で説明できる様になりたいと思います。中学生になって、また言われたら、自分で説明したいと思います。

めあて
「こんな簡単な言葉も分からないの?」と言われた時の対処方法を考えよう。

まず 「こんなことを言われたら嫌だ」という自分の思いを伝える。

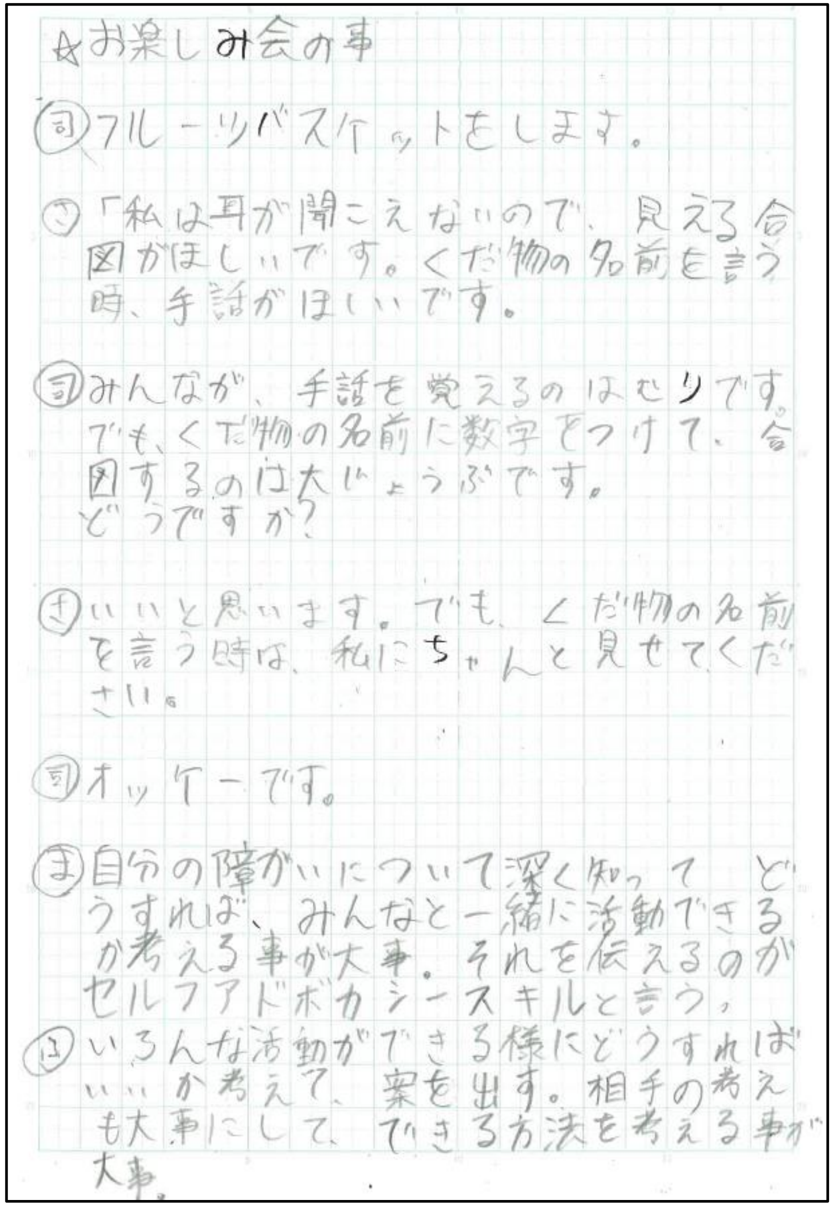
次に 自分の状態をきちんと説明し、理解を求める。

最後に これから、相手にどうして欲しいかを伝える。

振り返り
　自分で説明できるようになりたいと思います。

人間関係とコミ力を高める

アサーションスキルを育てる（5年生）



☆お楽しみ会の事

(司)フルーツバスケットをします。

(さ)「私は耳が聞こえないので、見える合図がほしいです。くだ物の名前を言う時、手話がほしいです。

(司)みんなが、手話を覚えるのはむりです。でも、くだ物の名前に数字をつけて、合図するのは大じょうぶです。どうですか？

(さ)いいと思います。でも、くだ物の名前を言う時は、私にちゃんと見せてください。

(司)オッケーです。

(ま)自分の障がいについて深く知って　どうすれば、みんなと一緒に活動できるか考える事が大事。それを伝えるのがセルフアドボカシースキルと言う。

(ほ)いろんな活動ができる様にどうすればいいか考えて、案を出す。相手の考えも大事にして、できる方法を考える事が大事。

アサーションスキルとは

　自分と相手、**両方の立場や考え方を尊重**しながら、自分の主張を適切な言葉で伝えるコミュニケーション方法。それにより、自分の気持ちを伝えることができ、お互いに不満を防止できるようになる。

5年生終了の学年末のお楽しみ会♪

　フルーツバスケットの時、果物の名前を言っても聞こえない児童は手話をつけて欲しい。しかし、手話をクラス全員が覚えるのは難しい。そこで、果物に数字を当てはめて、指で数字を表しながら、同時に果物の名前を言うことになった。それにより、難聴児も一緒に活動に参加することができた。

難聴児に体ごと向けて高々と数字を示す交流学級児童

ワークシートの振り返り

　いろんな活動ができるように、どうすればいいかを考えて、案を出す。相手の考えも大事にして、できる方法を考えることが大事。

共生社会を目指して

実際の授業風景（6年生）

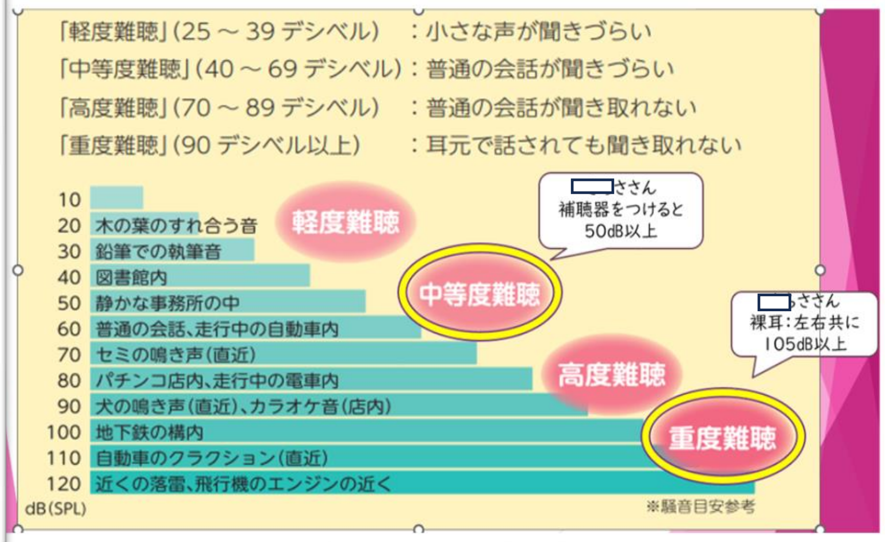
児童と一緒に難聴理解授業の説明スライドを作成し、主体性を育てる。

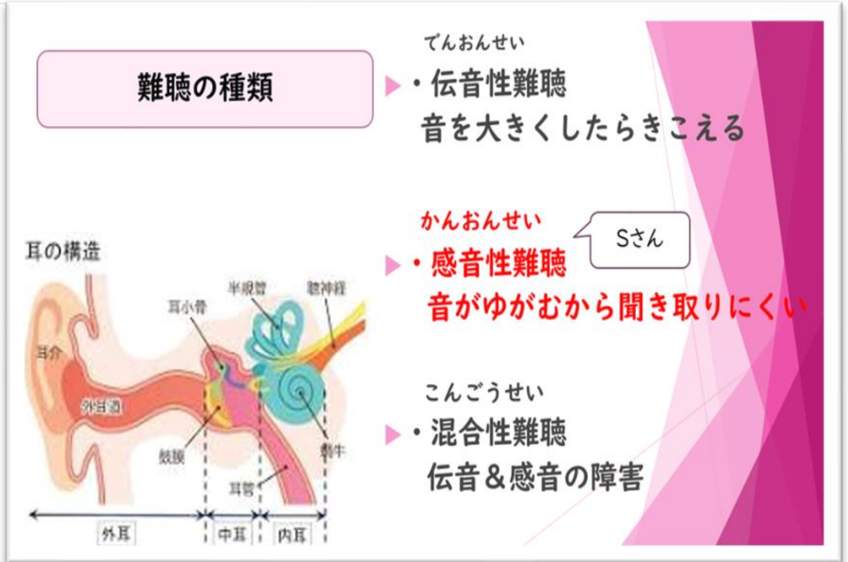
担任による聴覚障害についての説明するにあたり、当事者意識がもてるように児童の意見を積極的に取り入れながら、一緒にスライドの作成を行った。

スライド作成が終わって後、担任が話すセリフについても「しっかり伝えて欲しいことは何か？また、話してほしくないことはないか？」等を確認し、発表用のノートを作成した。

発表前のリハーサル時には、「今回の授業の主体は自分なんだ」という意識が高まり、時間配分や資料の指差しのタイミングまで細かく指示するなど主体的に授業を考える姿が見られた。

授業後、難聴児に体を向けて感想を伝える交流学級児童





授業で使用したスライドの一部

共生社会を目指して

児童の発表風景（6年生）

自分の障害について、再度しっかりと理解を深め、肯定的な立場から支援を求めることができる。

教師が、「聞き間違いが多いから、書いて教えて欲しいと伝えなさい。」と言うのではなく、本当に聞こえ方が違うのかなど、障害による困り感について実際に体験し、実感を伴った理解を促してきた。それにより、今回改めて自分自身の障害について説明することになった時、「何に困っているのか、どんな支援が必要か」等について全て自分で考えスムーズに伝えることができた。また、「こんな支援があれば、こういうことができます！」という肯定的な立場で支援をお願いすることができた。

更に、筆談をお願いするには、自分も漢字力や日本語力を高める努力をしなければいけないことに気づき、〝私ががんばっていること！〟として、みんなに伝えることができた。

※授業後に、「情報が分かれば、私にできる方法でみんなの役に立つことができる」と話していた児童。運営委員会の朝の挨拶運動に使うプラカードの絵を描いてみんなに喜ばれ、本人の自身にもつながっている。

音を大きくしてくれる
きかいです。
でも、私の場合
音がゆがむので
何を言っているのかわか
らないことがあります。

かんおんせいなんちょう
感音性難聴

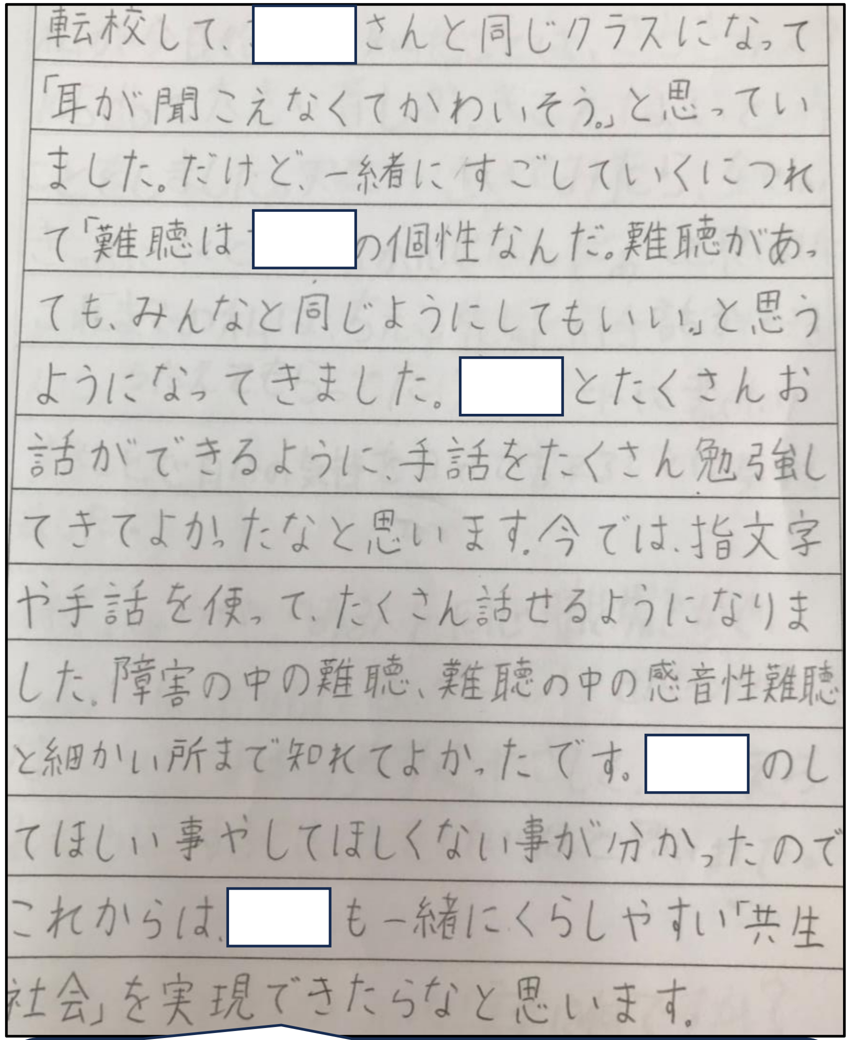
本当の音がちがう　ことがよくあります。

特に!!
サ行（さしすせそ）　の音は
タ行（たちつてと）　に変わってきこえます。

例文
ぞうさん　→　どうたん
さらさ　→　たらた
かんさつ　→　かんたつ

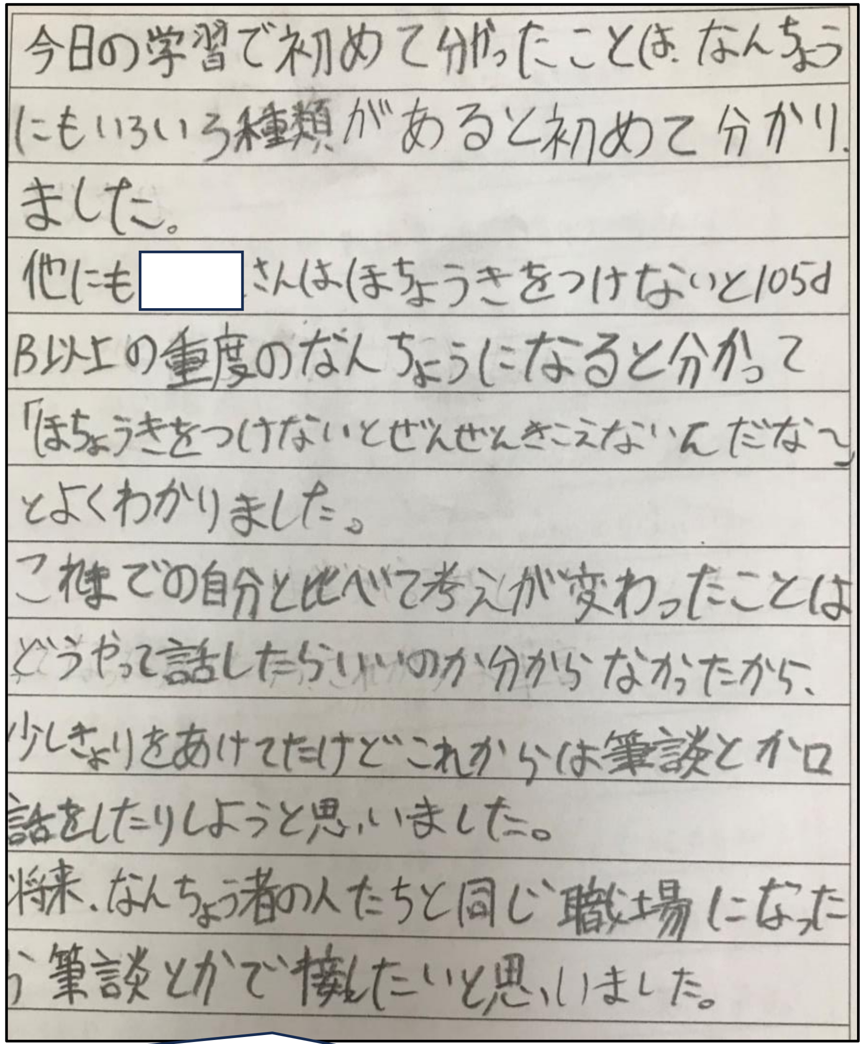
共生社会を目指して

難聴理解授業後の児童の感想（6年生）



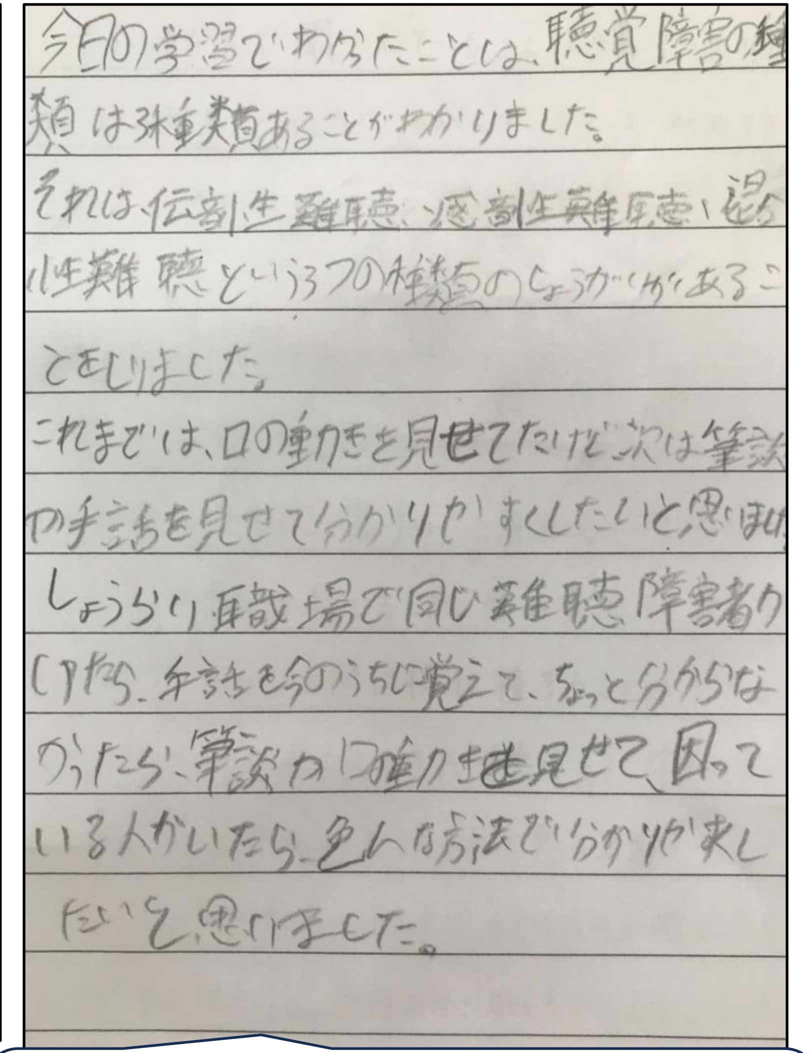
転校して、さんと同じクラスになって
「耳が聞こえなくてかわいそう。」と思ってい
ました。だけど、一緒にすごしていくにつれ
て「難聴はの個性なんだ。難聴があ
っても、みんなと同じようにしてもいい。」と思う
ようになってきました。とたくさんお
話ができるように、手話をたくさん勉強し
てきてよかったなと思います。今では、指文字
や手話を使って、たくさん話せるようになりま
した。障害の中の難聴、難聴の中の感音性難聴
と細かい所まで知れてよかったです。のし
てほしい事やしてほしくない事が分かったので
これからはも一緒にくらしやすい「共生
社会」を実現できたらなと思います。

「難聴はSさんの個性。手話を勉強して良かった」という、聴覚障害に対する態度形成と具体的サポートへの確信！



今日の学習で初めて分かったことは、なんちょう
にもいろいろ種類があると初めて分かり
ました。
他にもさんはほちょうきをつけないと105d
B以上の重度のなんちょうになると分かって
「ほちょうきをつけないとぜんぜんきこえないんだな～」
とよくわかりました。
これまでの自分と比べて考えが変わったことは
どうやって話したらいいのか分からなかったから、
少しきょりをあけてたけどこれからは筆談とか口
話をしたりしようと思いました。
将来、なんちょう者の人たちと同じ職場になった
ら筆談とかで接したいと思いました。

「少し距離をおいていたけど、これからは・・・」と、関わるための技術、自分でコミとれるように諦めないという認識。



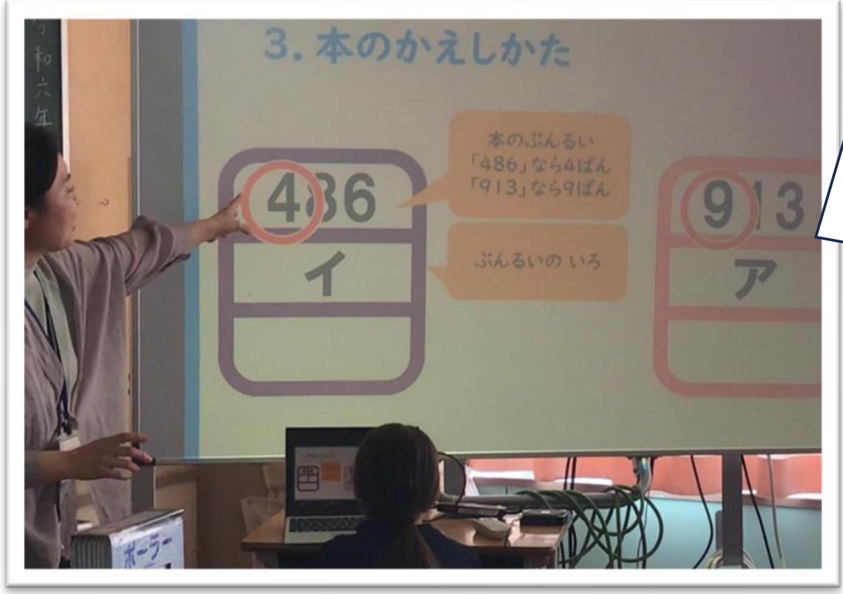
今日の学習でわかったことは、聴覚障害の種
類は3種類あることがわかりました。
それは、伝音性難聴、感音性難聴、混合
性難聴という3つの種類のなんちょうがあるこ
とをしりました。
これまでは、口の動きを見せてたけど次は筆談
や手話を見せて分かりやすくしたいと思いまし
た。しょうらい職場で同じ難聴障害者が
いたら、手話を今のうちに覚えて、ちょっと分からな
かったら筆談か口の動きを見せて、困って
いる人がいたら色んな方法で分かりやすくし
たいと思いました。

「これまで口の動きを見せていたけど次は筆談や手話を見せて・・・」という、新しいサポート技術への気づき！

共生社会を目指して

様々な場面でのセルフアドボカシースキルの向上

新年度スタート時、情報保障の為、交流担任や児童に使用してもらうイヤーマイクについて説明し、使用してもらっている。



担任不在時、図書館司書の先生へ自ら情報保障を願い出て、パワポのノート機能で字幕を読ませていただいた。

文房具店でノートを購入する際、筆談用のメモ帳と筆記用具を準備して買い物に出かけた。

自然教室の出発式で、看護師さんに、見える合図をお願いする児童。「痛い」の手話を覚えてもらった。

共生社会を目指して

難聴児のコミ力の向上と共に、周囲の難聴児に対するコミ力も高まってきた。

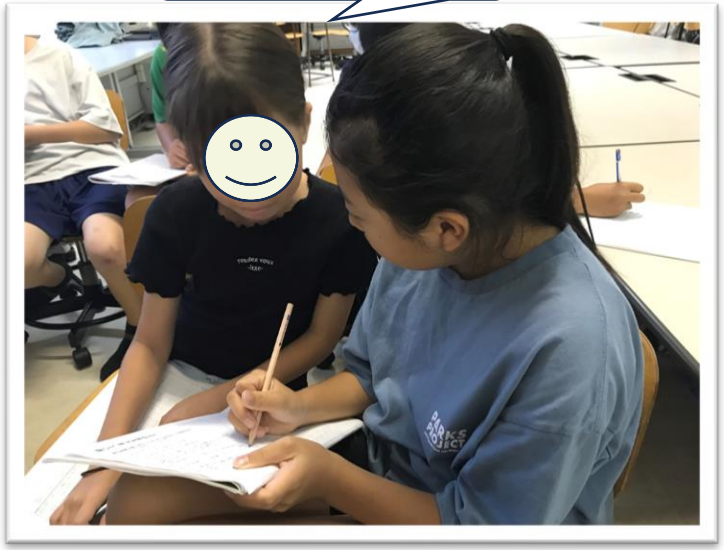
口話

指文字

音声認識アプリ

好きな朝食について
手話でフリートークを展開♪
難聴児：チーズの入った卵焼き
聴児：（手話で）あぁ、いいね～
私はそれをご飯にのせて食べたりするよ。
難聴児：今日はそれを食べてきたの？
聴児：（手話で）ううん。今日はパン！パンにバターぬったやつ。
難聴児：あぁ、私はいつもだいたいそれ！

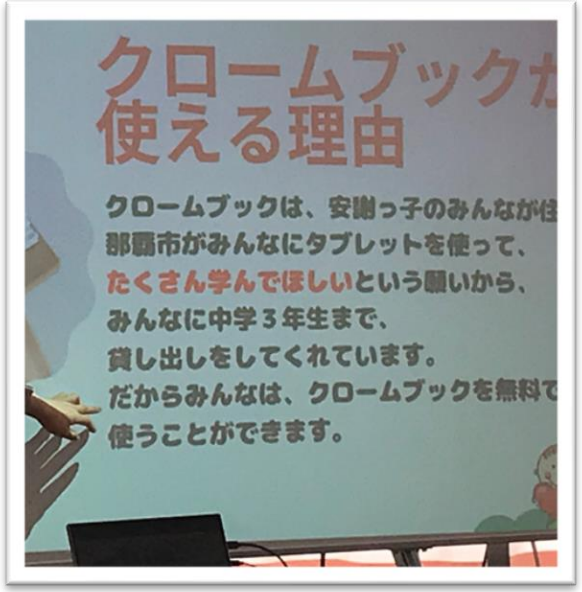
筆談

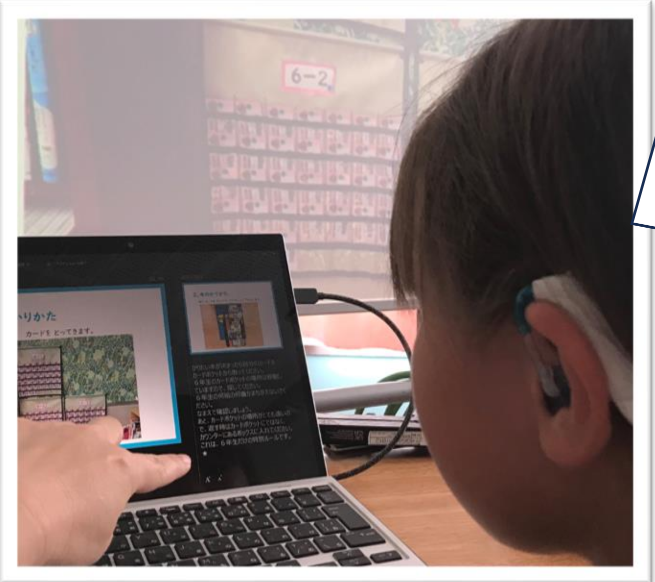


手話

共生社会を目指して

視覚情報を用いて難聴児に直接関わる教職員

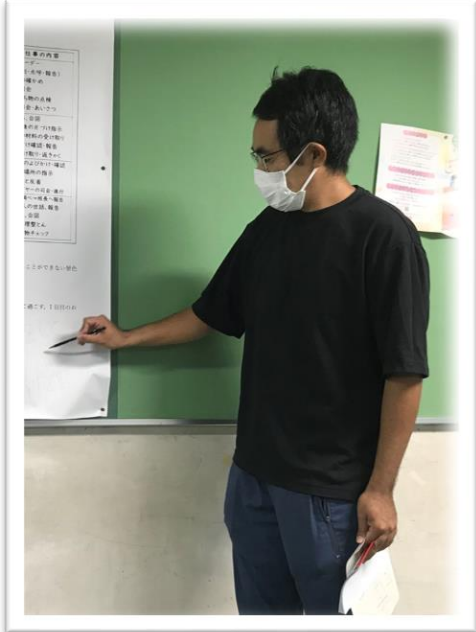




全体での講話の際は、ノート機能で事前に文字による情報を準備し、スライドも見せながら内容を伝える。

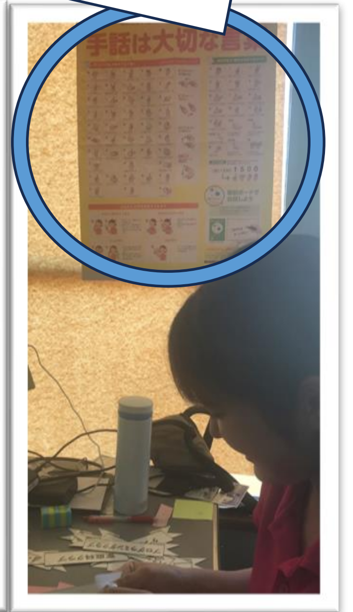
他学年の先生。スマホのメモ機能を使って情報を伝える。

デスクの脇の壁に大きな指文字表を張っている交流学級担任。常に難聴児とのコミ方法を意識している



風邪等で、マスクを外せない時は筆談や簡単な手話を用いて交流！

→難聴児の交流学級担任→
簡単な手話や指文字、口話、筆談、音声認識アプリ等を利用して常に見える情報保障を行っている。



共生社会を目指して

周囲への障害理解のアプローチ

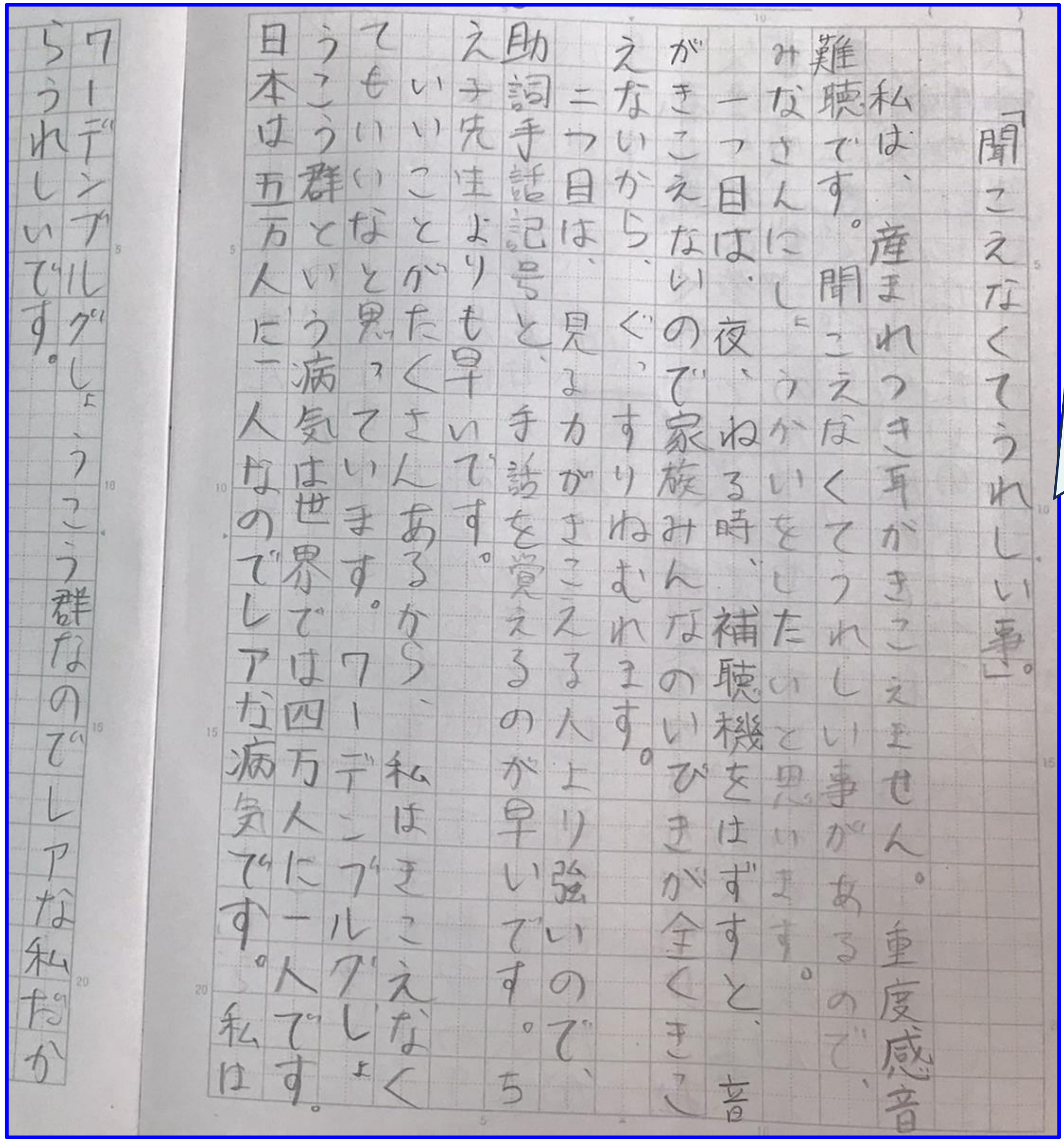
	難聴学級担任が行った授業内容	難聴児童が行った活動	周囲の反応
1年 2 年	テーマ「みんなちがって、みんないい」 ・難聴の為、補聴器を装用していること ・補聴器は音を大きくする機械であること ・補聴器をさわったり、借りたりしないでほしい ・呼ぶときは肩を叩いて合図してほしい ・授業中は静かにしてほしい 難聴児への関わり方について、授業を行いそれを紙に書いて交流学級に年間を通して提示した。	・みんなの前で「お話が聞こえないので、教えてください。よろしくおねがいします。」と伝えた。	・「かわそう・・・」 ・「耳に機械（補聴器）つけていて怖い。」 ・障害があるから全部手伝ってあげよう。 ・担任が不在の際は、授業の準備や片付け、掃除も全て周囲の子が手伝ってあげていた。 ※できることも全てお手伝いしてくれていた。
3 年	テーマ「きこえにくいお友達との関わり方について知ろう」 ・在籍児童の聞こえのレベルを具体的に数字とイラスト等で示して裸耳の場合、ほとんど聞こえないことなどについて理解を深めた。 ・きこえにくい人との関わり方について、口を大きく見せる方法や手話や指文字などがあることを具体的に示した。	・給食後のホームルームの時間に手話講座と題して、毎日１つの手話をクラスのみんなに教えた。	・聞こえにくいお友達とお話がしたいから、指文字を覚えよう。 ・目でお話しする「手話」ってあるんだね。教えて欲しい。 ・「障害があって大変だね。わからない時は言ってね。手伝うからね」と声をかける。

共生社会を目指して

周囲への障害理解のアプローチ

	難聴学級担任が行った授業内容	難聴児童が行った活動	周囲の反応
4年	テーマ「きこえない、きこえにくいことについて考えよう」 ・難聴とはどういう障害なのかについて、医学的な用語も入れながら説明し、感音難聴の特性（音がゆがむ）についても詳しく説明した。 ・感音難聴の音源を活用して難聴疑似体験を行った。 ・児童が視覚教材を使って授業を行っている様子を紹介した。	・PPにて、自分の障害について説明し、それによる困り感とその解消の為にお願いしたいことついて伝えた。その際に既にしてもらっている支援についてはありがとうベースで伝えた。	・障害があるのにすごい ・障害があるのに頑張っている ・手話の事や難聴のことについて、もっと教えて欲しい。
5年	総合のテーマ「福祉」と合わせて ・ろう学校による出前授業にて、イヤーマフを使っての難聴疑似体験や補聴器装用体験を行った。 ・聴覚障害のある子どもの通う学校「沖縄ろう学校」について知識を深めた。	・手話クラブを立ち上げ、手話普及のために活動した。 ・ロジャーマイクについて交流学級へ説明を行った。	・手話や指文字を積極的に覚えてくれた。 ・やってあげるのではなく、一緒できる方法を考えてくれるようになった。
6年	テーマ「共生社会実現を目指して」 ・4年時の授業に共生社会についての説明を加え、聴覚障害児が一緒に活動に参加するための方法について全員で考えた。 ・難聴児に関わっている様子を動画や写真で紹介し、既に共生社会が実現しつつある ※6学年での授業は、聴覚障害理解啓発をねらい、意図して、日曜参観日や教育事務所、教育委員会等の学校訪問に合わせて授業を行った。	・PPで障害の具体的な内容とお願いする支援の理由、その効果について説明を行った。 ・共生社会とは「お互いさま」の社会であることから、自分が努力することについても伝えた。	・クラスの一員として一緒に活動できる様に、自分にできる方法で関わっている。 ・状会者が自分でできることまで全てやってあげることを「優しい差別」との認識をもち、できることはきちんと求めるようになった。

共生社会を目指して


「聞こえなくてうれしい事」
私は、産まれつき耳がきこえません。重度感音難聴です。聞こえなくてうれしい事があるので、みなさんに「しょうかい」をしたいと思います。
一つ目は、夜、ねる時、補聴機をはずすと、音がきこえないので家族みんなのいびきが全くきこえないから、ぐっすりねむれます。
二つ目は、見る力がきこえる人より強いので、助詞手話記号と、手話を覚えるのが早いです。ちえ子先生よりも早いです。
いいことがたくさんあるから、私はきこえなくてもいいなと思っています。ワーデンブルグしょうこう群という病気は世界では四万人に一人です。日本は五万人に一人なのでレアな病気です。私はワーデンブルグしょうこう群なのでレアな私だからうれしいです。

肯定的な自己認識の育ち

「きこえなくてうれしいこと」
一つ目　補聴器を外すとぐっすり眠れる
二つ目　見る力が強い
いいことがたくさんあるから、私はきこえなくてもいいなと思っています。
ワーデンブルグ症候群はレアな病気です。
レアな私だから嬉しいです。

資料
アセスメント結果

※一部の検査項目のみ掲載

①低学年時はアセスメントには取り組んでいなかった。
②3年までは思考力、語彙力、文法力に課題があったが、語彙・文法指導に取り組むことで4年時にはほぼ改善し、教科書を自分で読んで理解できるようになった。
③高学年において、検査等では平均的な結果となっているが、児童の実際の他者との関わりを見ていると、語彙力、文章読解力等には以前課題があるように感じる。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
認知 思考	田中ビネー		WISCⅣ（言語のみ） ＊[redacted]		WISCⅣ（言語のみ） ＊[redacted]	
			太田ステージ、St.Ⅳのみ ＊[redacted]通過			
			比較3問題：1問通過 ＊[redacted]	比較[redacted]問題：全問クリア ＊論理的思考可	比較3問題：全問クリア ＊論理的思考可	比較3問題：全問クリア ＊論理的思考可
認知的 共感			心の理論 （サリー＆アン課題） 通過	心の理論：「焼き芋問題」のみ[redacted]		心の理論：5問全問通過
語彙			絵画語彙 評価点[redacted]＊[redacted]	絵画語彙：評価点[redacted] ＊[redacted]		絵画語彙：評価点10（年齢並） ＊語彙力改善
文法			Jcoss：通過[redacted]項目 助詞テスト[redacted]点 ＊[redacted]	Jcoss：通過[redacted]項目 助詞テスト[redacted]点 ＊助詞理解改善	Jcoss:20項目全問通過	Jcoss：20項目全問通過 助詞テスト[redacted]点
読解			読書力（低学年）偏差値 [redacted] ＊[redacted]	読書力（中学年）偏差値[redacted] ＊[redacted]	読書力（中学年）偏差値 [redacted]（5月に実施）	読書力（高学年）偏差値 [redacted]＊[redacted]

まとめ

難聴児童の成長における成果と課題

	成果	課題
日本語力 思考力 学力	・体験活動で語彙の拡充を図り、その後日本語文法指導で文法力をしっかり身につけさせたことで思考するための素地を整えることができた。それにより、学力及び認知発達を促すことができた。	・自主学習や読書の習慣等がないことから、語彙力、知識力の伸びが鈍化している。 ・日常の出来事を日記等で書く事はできるが、自分の考えを論理的に書き表す作文能力には未だに課題がある。
障害認識 自己認識	・自己の障害について、自立活動の中で丁寧に取り組んだことで、適切な障害認識が育まれ、「自分は自分のままでいい」という肯定的な自己認識がもてるようになった。 ・肯定的な自己認識のもと、積極性が増し、運営委員会に立候補して選出されたり、手話クラブを立ち上げたりする等活動の幅が広がった。 ・自分の長所を多く知っている。	・周囲に合理的配慮を求めるには、自分も一緒に必要な配慮や支援について考えることが大切であるが、受け身になっている。 ・文字での情報保障をお願いするからには、自分もそれを読んで理解する為の語彙力や漢字力が必要だという認識はあるものの、その力を高めようとする姿は今はまだみられない。
コミ力 人間関係能力 社会性	・手話クラブをたちあげ、クラブ長として活動内容の計画、立案そして運営を積極的に行い、クラブの中心となって盛り上げている。 ・買い物に行く時や、公共の乗り物に乗る際など、情報獲得手段として何を持参すればよいのかが分かり、自分で準備し活用することができる。 ・自分の障害の状態を相手に伝え、アサーティブなコミュニケーションで支援を申し出ることができる。	・自分でやると決めたことや、やりたいと申し出た事でも、面倒になると途中で投げ出すなど、責任をもってやり遂げるという意識が弱く、黙ったままなかったことにしようとすることが度々ある。 ・仲のいい友達が限られていて、それ以外の同級生とは必要最低限の関わりしかできない。

まとめ

児童を取り巻く環境面での成果課題

	成果	課題
同学年の児童の変容	・「障害があってかわいそうだから助ける」という視点から、「仲間として一緒に活動できる方法を一緒に考える」という考え方に変わった。 ・全て手伝ってあげるという関わり方から、できることは任せて、できないことだけ支援するという関わり方に変わってきた。 ・手話や指文字を女子児童の半数以上が身につけ、難聴児とコミュニケーションをとっている。	・「約束を守る」等の当たり前のルールを難聴児が守らなくても、意見をすることができず「障害児だから」という遠慮がまだあるように感じる。 ・難聴児の発信が理解できなった時でも、聞き返しをせずにうやむやのまま話をおわらせることがある。
交流学級担任や教職員との連携	・難聴児とコミュニケーションをとる際、担任を介さず、児童と向き合い、直接やりとりしている。 ・情報保障への意識が根付き、口話、筆談、手話、指文字等、視覚的な情報を担保するという風土の醸成が図られている。	・伝えたことが意味的に理解されているかの確認がとれていなくて、後々、話の内容が全く通じていなかったということがある。 ・音声認識機能への正確な文字情報反映の為、話すスピードを工夫し、情報が正確に提示されているか確認する。
難聴学級担任と家庭との連携	・低学年の頃に多かった遅刻が両親への声掛けを継続して行ったことで少なくなった。 ・医療からの情報等を素早く共有し、児童への適切な支援につなげることができた。 ・個人面談等の機会には両親そろって参加し、常に情報を共有している。	・語彙や知識を増やす為に、ある話題に関しての考えを聞いたり、考えの理由を尋ねたりする等の丁寧な関りが大切という障害認識が弱い。 ・障害理解について面談等で伝えてはいるが、ディナーテーブル症候群などへの理解が未だに厳しい。 ・宿題等、家庭でも学びが必要だという認識が薄い。